

第四七一號（極秘）

今般當館ニ於テ行政院秘書處記錄係ヨリ第一次、第二次、第三次（今回）ノ廬山會議決議錄及宋子文ノ在米中蔣介石及汪精衛トノ間ニ往復セル電報二十通ノ寫ヲ極秘裡ニ入手シタルニ付翻譯ノ上一括適當ノ方法ニテ送附ノ筈ナルカ右寫ハ爲念機ヲ見テ記錄元本ト對照スルコトニ打合セ居ルモ一時ニ元本ノ持出シ困難ノ爲時日ヲ要スルニ付不敢右重

要ノ部分御参考迄順次電報スヘキ處御如才モ無キコト乍ラ右入手ノ事實及經緯ハ絶對ニ洩ラサレサル様致度尙其ノ内容ニ付テモ當分發表御差扣ヘアリ度シ
支ヨリ上海ヘ轉報アリ度シ
支、北平、滿ヘ轉電セリ

3 本會議関係

通一機密連第五號

昭和八年五月三日

外務大臣伯爵 内田 康哉

石井全權委員

松平全權委員

深井全權委員

國際經濟會議ニ閔スル件

國際經濟會議ニ閔スル我方ノ確定方針ニ付テハ追テ何分ノ

儀申進ズベキモ五月二日別紙第一號ノ通閣議ニ於テ一應其ノ諒解ヲ得タルニ付右御承知相成度

尚各省關係官協議会ニ於テ一應採擇ノコトニ決定シタル別

紙第二號「國際經濟會議ニ對スル帝國政府ノ方針案」及同協議会ニ研究案トシテ提示シタル別紙第三號「日米間互惠

稅率協定締結ニ閔スル帝國政府ノ方針（案）」為御参考添付スルニ付御参照相成度シ

本信写送付先在英、米、佛、獨、伊各大使、在波蘭公使、在佛聯盟事務局長

左記其ノ儘添付ノコト

123 昭和八年五月三日 内田外務大臣より
ロンドン國際經濟會議全權宛
國際經濟會議に対する我が方方針などの送付

三 ロンドン國際經濟會議

第二号 國際經濟會議ニ對スル帝國政府ノ方針案

第三号 日米間互惠税率協定締結ニ關スル帝國政府ノ方針（案）

（別紙）

第一號

國際經濟會議ニ關スル件

（昭和八年五月二日閣議ニ附シ

一應其ノ諒解ヲ得タルモノ）

倫敦ニ於テ近ク開催セラルベキ國際經濟會議ニ對スル帝國政府ノ方針左ノ如クナルニ付華府豫備會商ニ於テモ其ノ趣旨ニ依リ御措置相成度、會議及各國代表ト會談ノ結果並其ノ他ノ情勢ニ徵シ我ニ於テ其ノ方針ニ變更ヲ加フルヲ利益又ハ得策ト認メラルトキハ當方訓令ヲ待チテ措置セラル様致度シ

一、國際協力ニ依リ經濟上ノ諸般ノ困難ヲ除去シ世界經濟ノ恢復ヲ計ラムトスル企圖ハ帝國政府ノ最モ歡迎スル所ニシテ米國ニ於ケル主要國代表者ノ會談ニ依リ近ク倫敦ニ開催セラルベキ本會議ヲ成功セシムベキ基礎ノ確立セラル様致度シ

三、一般的經濟恢復ヲ容易ナラシムル爲ニハ物價又ハ爲替ノ低落等ニ依リ支拂ノ著シク困難トナレル對外債務ヲ整理スルコト最モ緊要ナリ殊ニ平價ノ切下ノ場合ニ於テハ金拂約款ノ債務ニ付テ公正ナル調整ヲ施スノ要アリト認ム仍テ是等ノ債務ニ關シ利害關係者ノ協調、關係政府ノ援助又ハ國際機關ノ斡旋ニ依リ適當ナル一般的解決策ノ講ゼラレンコトヲ希望ス

四、此際國際經濟會議ニ於テ通商上各種障礙ノ緩和ニ關シ有效ナル措置ノ講ゼラルニ至ラムコトハ帝國政府ノ最モ隨時申進ズベシ

希望スル所ナリ

五、本邦關稅ハ單稅制度ニシテ其ノ稅率ハ本邦經濟狀態ヲ顧慮シ比較的之ヲ低率ニ定メアリ從ツテ關稅引下ヲ協定スルトルモ一律ニ稅率ヲ引下ゲントスルガ如キ案ニハ同意シ難ク各國夫々ノ關稅制度貿易狀態產業狀態等ヲ慎重ニ考究ノ上互惠稅率協定ヲ締結スルヲ適當ト認ム

六、現在爲替安ニ依ル輸出品價格ノ低廉竝不必要ナル競爭ニ依ル價格ノ低下ニ對シ先方ニ於テ各種障碍ノ設定ヲ^{刺戟}シツツアル場合ニ於テハ之ニ處スル機宜ノ方策ヲ講ズル

ノ要アルベク例ヘバ我方ニテ輸出ノ統制ヲ行フニ於テハ

先方ニテ相當各種障碍ノ緩和ヲ圖ルノ意嚮アルガ如キ場合ニハ相手國トノ間ニ右趣旨ニ應ズベキ適當ナル協定ヲ爲スガ如キ方策ヲ講ズルコトモ考慮シ得ベシ

七、現在ノ世界不況ノ一原因ハ需要供給ノ均衡ヲ得ザル點ニアリ國際的經濟協定ヲ以テ需給ノ合理的調節ヲ圖リ世界經濟ノ恢復ニ資セントスル方針ニ付テハ本邦トシテモ主義上之ニ贊成シ差支ナシ然レドモ本邦ハ地理上歐米諸國ヨリ遠ク又其ノ產業狀態經濟狀態社會狀態等諸外國トハ其ノ趣ヲ異ニスル點尠カラザルヲ以テ或種產業ニ付具体

ルニ至ランコトハ我方ノ切望スル所ナリ

二、現時經濟不況ノ主要ナル原因ノ一ハ各國ノ金本位制度ノ離脱及ビ之ニ伴フ通貨ノ混亂ナリ故ニ各國間ノ協力ニ依リ金本位ノ維持及完全ナル運行ヲ保障シ得ル條件ガ成就セラレ各國ノ金本位復歸ノ達成セラルニ至ランコトヲ希望ス尤モ金本位ヘノ復歸前ニ於テハ各般ノ準備ヲ必要トルノミナラズ各國ニハ夫々固有ノ事情ノ存スルモノアルヲ以テ金本位ヘノ復歸ノ時期方法等ノ決定ニ付テハ各國ニ相當自由裁量ノ餘地ヲ與ヘ以テ餘り窮屈ニ失セザル様協定スルコト致度シ

三、一般的經濟恢復ヲ容易ナラシムル爲ニハ物價又ハ爲替ノ低落等ニ依リ支拂ノ著シク困難トナレル對外債務ヲ整理スルコト最モ緊要ナリ殊ニ平價ノ切下ノ場合ニ於テハ金拂約款ノ債務ニ付テ公正ナル調整ヲ施スノ要アリト認ム仍テ是等ノ債務ニ關シ利害關係者ノ協調、關係政府ノ援助又ハ國際機關ノ斡旋ニ依リ適當ナル一般的解決策ノ講ゼラレンコトヲ希望ス

四、此際國際經濟會議ニ於テ通商上各種障碍ノ緩和ニ關シ有效ナル措置ノ講ゼラルニ至ラムコトハ帝國政府ノ最モ随时申進ズベシ

的問題ノ發生シタル場合我方產業ガ之ニ加入スルコトヲ得ベキヤ否ヤニ付テハ慎重ナル考慮ヲ要スベク又當該產業團体ノ意向ヲモ參酌スルノ必要アリ

八、尙國際經濟會議乃至華府豫備會商ニ於テ審議セラルベキ諸問題ニ關スル帝國政府ノ詳細ノ方針乃至意嚮ニ付テハ隨時申進ズベシ

第二號

（昭和八年五月二日第三回關係省打合會決定）

國際經濟會議ニ對スル帝國政府ノ方針案

第一 貨幣及信用政策

（一）國際經濟會議準備委員會ハ會議議題案ヲ作成セル當時ノ國際經濟狀態ヲ考慮ニ入レ金委員會報告書勸奨ノ趣旨ヲ採用シ國際的金本位ヘノ復歸ヲ提倡シ居レリ。然

ルニ最近ニ於ケル米國ノ金融恐慌以來事態ハ急激ニ變化シタルヲ以テ、來ルヘキ會議ニ於テハ、本議題案ノ提倡スルモノト異ル本位制ニ關スル提案現ハレ之ニ關連シテ議題案ノ範圍外ノ事項ニ付テモ考究スルノ必要

ヲ生スル場合アルヘシト雖モ政府トシテハ豫メ金本位

以外ノ制度ニ付キ方針ヲ決定スルコト困難ナルヲ以テ
差當リ議題案ノ範圍内ニ於テ金本位復歸ノ方策ニ對ス
ル態度ヲ決定セントス。（尙ホ本位問題ニ付テハ「銀」
問題ニ關スル方針ノ項參照）

(一)近年ニ於ケル經驗ニ徵スルニ一國ノ金本位ヘノ復歸並
ニ金本位ノ維持及完全ナル運行ハ國際的協力ヲ伴ハス
シテ之ヲ達成スルコト困難ナリ。
故ニ各國間ノ協力ニ依リ金本位ヲ離脱セル國モ同本位
ヘ復歸スルコトヲ得且之力維持及完全ナル運行ヲ保障
シ得ル條件ヲ備ヘタル國際的金本位ノ成立ヲ希望ス。

尤モ金本位ヘノ復歸前ニ於テハ各般ノ準備ヲ必要トス
ルノミナラス各國ニハ夫々固有ノ事情ノ存スルモノア
ルヲ以テ金本位ヘノ復歸ノ時期方法等ノ決定ニ付テハ
各國ニ相當自由裁量ノ余地ヲ與ヘ以テ餘り窮屈ニ失セ
サル様協定スルコト致シ度。

(二)議題案ノ提倡スル「自由ナル國際金本位ヘノ回復條件」
及「金本位ノ一般的回復前ニ遂行スヘキ通貨政策」^(一)
付テハ本邦トシテハ趣旨ニ於テ大体異議ナシ。然レト
モ其ノ審議ニ當リ必要ノ場合ニ於テハ左ノ諸點ニ付キ

本邦ノ特殊事情ヲ説明シ誤解ナカラシムコトト致シ度
シ。

(イ)本邦ノ對外爲替相場ハ一昨年末金輸出ノ再禁止以來

ハ主トシテ國際關係ノ不安、通貨増發ノ懸念及資本

ノ海外逃避ニ基ク結果ニシテ政府ニ於テ故意ニ國際

貸借ノ實勢以下ニ邦貨ノ對外價值ヲ低落セシメ以テ

國際貿易上有利ナル地位ヲ占メントスルモノニアラ

ハ主トシテ國際關係ノ不安、通貨増發ノ懸念及資本
ノ海外逃避ニ基ク結果ニシテ政府ニ於テ故意ニ國際
貸借ノ實勢以下ニ邦貨ノ對外價值ヲ低落セシメ以テ
國際貿易上有利ナル地位ヲ占メントスルモノニアラ

寧ロ政府ノ多額ノ金現送ト資本逃避防止法ノ施行ノ
結果爲替低落ハ今日ノ程度ニ止マルコトヲ得タリ。

(ロ)本邦ニ於ケル外國爲替ノ制限ハ從來主トシテ資本ノ
逃避ヲ防止スルヲ目的トシ居リ、外國貿易其ノ他ノ
正常ナル取引ニハ何等制限ヲ加ヘ居ラス。又今回施
行セシ外國爲替管理法ニ於テモ政府ハ外國貿易ニ對
シテモ間接ニ制限ヲ加ヘ得ル權限ヲ有シ居ルモ其ノ
實施ニ當リテハ内外ノ情勢ニ依リ已ムヲ得サル場合
ニアラサレハ外國貿易其ノ他ノ正常取引ハ制限セサ
ル方針ナリ。

(四)議題案ノ示ス「金本位ノ機能」ヲ果ス上ニ必要ナル原

則ハ國際的金本位ノ完成ヲ期スル爲其ノ實現ヲ希望ス。
尤諸原則ノ内中央銀行所有ノ在外資金ノ運用ニ付キ國
際決済銀行（又ハ將來設立セラルコトアルヘキ國際
信用機關）ニ預入スヘキ場合ハ別トシテ悉ク之ヲ該資
金所在國ノ中央銀行ニ預入レ又ハ同行ヲ通シテ運用ス
ルコトトナセルハ窮屈ニ過クル嫌アルヲ以テ該資金ノ

運用ニ付テハ其ノ所在國中央銀行トノ間ニ連絡ヲ取ル
程度ニ止メ運用ノ方法ハ各行ノ自由トスルコトト致シ
度シ。但シ他ノ諸國力總テ議題案ノ通り運用方法ヲ承
認スル場合ニ於テハ本邦トシテハ中央銀行カ其ノ在外
代理店タル自國銀行ニ預入スル場合ニ付例外ヲ主張ス
ルノ外議題案ニ賛成セラレ差支ナン

(五)「銀」ニ付テハ本邦ハ大生産國ニモ亦消費國ニモアラ
サルモ銀貨國タル支那ニ隣接シ居ルヲ以テ其ノ價值ノ
安定ニ對シテハ直接ノ利害關係ヲ有スルモノナリ。故
ニ銀價ノ安定及維持策ハ本邦トシテハ事情ノ許ス限り
之力成立ニ協力スルコトニ異議ナシ。金銀複本位制ニ
付テハ從來數次ノ國際會議ニ於テ銀ノ生産國及保有國

第二 物 價

議題案ハ物價ト生産費トノ不均衡ヲ匡正スヘキ方策ノ一
トシテ生産費ノ低下ヲ擧ヶ之力爲メ貨銀ノ引下及債務整
理ノ必要ヲ述ヘ居レルカ本邦トシテハ右ノ内債務整理ノ
實行ヲ緊要且効果的ナル對策ナリト認ムルヲ以テ國際的
協力ニ依リ其ノ實現セラレントコトヲ希望ス

右ニ關シ本邦トシテ主張スヘキ點ハ第三ノ(三)ニ於テ述フ
ヘシ
次ニ他ノ不均衡匡正策タル物價ノ引上ニ付テハ國際經濟
ノ現狀ニ於テ物價ノ低落力經濟上及社會上各種ノ難問題

發生ノ基因タルニ鑑ミ一般物價水準ヲ適當ナル程度ニ引上クルコトノ必要ナルハ本邦ノ是認スル所ニシテ之力實行方法トシテ議題案ノ主張スル所亦趣旨ニ於テ大体異議ナシ

第三 資本ノ移動再開

(一) 本邦ノ爲替管理ハ今日ニ於テハ資本ノ逃避防止ヲ主眼トシ貿易其ノ他正常ナル取引ニハ可成干渉セサル方針ナリ。故ニ國際經濟及國際政局ノ不安緩和サレ大体ニ於テ資本逃避ノ虞ナキニ至ラハ速ニ制限ヲ撤廢スルコトニ異議ナシ。

(二) 國際的貨幣及信用政策運用ノ爲國際決済銀行ノ機構ノ一部トシテ又ハ獨立ノ國際的信用機關トシテ一中心機關ノ創立案提起セラレ會議ニ於テ其ノ必要ヲ認メラル

ルニ於テハ本邦トシテハ曩ニ國際決済銀行ノ組織ニ參加シタルト同様本邦ノ事情ノ許ス範圍ニ於テ協力スルコトニ付テハ異議ナシ。

(三) 生產費ノ低下ヲ圖リ且一般的經濟恢復ヲ容易ナラシムル爲ニハ物價爲替ノ低落等ニ依リ支拂ノ著シク困難トナレル對外債務ヲ整理スルコト最モ緊要ナリ。殊ニ平

フ限り速ニ之ヲ廢止スルノ要アリト思考ス尤モ我國トシテモ國家生活ニ緊密ナル關係ヲ有スル產業ノ爲メ或種品目ニ付禁止制限ヲ加フルノ自由ヲ留保シ度キ品目アルコトハ後記ハ輸出入禁止制限撤廢ニ關スル條約ノ項ニ記載ノ如シ

(四) 輸入額割當制度

割當制度ガ承認セラレ爲ニ本邦ガ現行通商條約ニ依リ有スル權利ヲ害セラルルガ如キコトナキ様措置シ度キ考ナリ

(五) 輸出入禁止制限撤廢ニ關スル條約

本邦ニ於テハ輸入額割當制度ヲ實行スルコトナク又外國爲替ノ管理ヲ實施スト雖モ正常ナル取引ニ對スル支拂ハ之ヲ許可シ外國貿易ニ障碍ヲ及ボサザル様充分ノ注意ヲ拂ヒ居レリ各國ニ於ケル輸入額割當制度ノ即時撤廢ハ帝國政府ノ最モ希望スル所ナルモ若シ右即時撤廢不可能ナリトセバ少ク共通商制限ノ漸進的除去ノ爲輸入割當額ヲ増加シ交易ノ正常水準ニ近付カシムルノ必要アリト思考ス尙輸入額割當制度ノ實施ハ通商條約違反トナル場合少カラズ帝國政府ニ於テ諸般ノ事情ヲ考量シ之ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ爲スコトハ見合セ居ル場合ナキニ非ザルモ主義上條約上ノ権利ハ飽ク迄モ之ヲ保留シ來レル次第ナルニ付今次ノ會議ニ於テモ一般的國際條約ニ依リ輸入額

價切下ノ場合ニ於テハ金拂約款ノ債務ニ付公正ナル調整ヲ施スノ要アリト認ム。而シテ戰債問題力關係國間ニ於テ最終的決定ヲ見ル爲全幅ノ努力ノ拂ハレツツアル今日ニ於テ戰債以外ノ重要ナル國際債務ニ付テモ之同様其ノ整理ノ爲利害關係者ノ協調的行爲、關係政府ノ援助又ハ前記國際的信用機關等ノ斡旋ニ依リ速ニ適當ナル一般的解決方策ノ講究セラレンコトヲ希望ス。

第四 國際貿易ノ制限

現在國際通商上ニ最モ大ナル障碍ヲ爲セルハ高率關稅、輸入許可制度、輸入額割當制度及外國爲替管理ニ伴フ輸入代金支拂ノ滯滯ナリ貿易制限關係ノ諸問題ニ關スル大體ノ意向左ノ如シ

(一) 輸入許可制度

國家生活ニ緊密ナル關係ヲ有スル產業ノ爲メ或種品目ニ付許可制度ヲ採用スルノ自由ハ之ヲ容認セサルヘカラスト雖モ近時ノ趨勢ヲ見ルニ極メテ廣汎ノ品目ニ亘リ輸入許可制度ヲ採用セル國少シトセス右輸入許可制度ハ國際貿易ヲ阻害スルコト甚大ニシテ世界經濟ノ恢復ニ對スル大ナル障害トナリ居ルニ付能

合ニ於テハ其ノ書方如何ニ依リテハ本邦ニ於テ國家生活ニ緊密ナル關係ヲ有スル產業ノ爲メ必要ナル禁濫用ヲ防止スルノ目的ヲ以テ之ヲ修正セントスル場合ニ於テハ其ノ第五條ヲ其ノ儘維持セス其ノ尤モ一九二七年ノ第五條ヲ其ノ儘維持セス其ノ

止及制限ヲ加ヘントスルニ當リ支障ヲ來スノ虞モア
ルニ付（別紙甲號參照）請訓ヲ待ツテ措置スルコト
ト致度シ

(二) 外國爲替管理

外國爲替管理ニ伴フ貿易障碍ノ撤廢ニ付テハ現在ノ
如キ狀勢ヲ以テシテハ直ニ之ヲ實現セシムルコト困
難ナリト思考スルモ成ル可ク正常ナル貿易ニハ障碍
ヲ及ボザル様措置スルノ必要ナルコトヲ高調スル
ト共ニ清算協定ノ如ク或特定國ノ輸入品ニ對シテノ
ミ代金ノ支拂ヲ容易ナラシメ貿易ヲ人爲的ノ經路ニ
轉向セシムルモノハ他ノ諸國ニ對シ不利益ナル差別
待遇ヲ爲シ世界ノ通商ヲ障碍スルモノナルコトヲ説
キ其ノ撤廢ヲ主張スルコトト致度シ

(三) 原產地標記

原產地標記義務等ノ手段ニ付テハ諸外國中之ヲ濫用
シテ輸入防遏ノ爲ノ間接的保護手段トスルモノアル
ヲ以テ右濫用防止ニ付テモ考究スルノ要アリト思考
ス

第五

關稅及條約政策

(イ) 關稅引下

本邦關稅ハ單稅制度ニシテ其ノ稅率ハ本邦經濟狀態
ヲ顧慮シ比較的之ヲ低率ニ定メアリ從ツテ諸外國ニ
對シ協定ニ依リ國定稅率ヲ輕減スルコトハ極メテ因
難ニシテ現ニ本邦ト諸外國トノ間ノ現行通商條約ヲ
見ルモ相手國ニ對シ我方ノ國定稅率ノ輕減ヲ承認セ
ル協定稅率ヲ設定セル事例ハ極メテ稀ナリ之ニ反シ
用シ無條約國ニハ極メテ高率ノ最高稅率ヲ賦課スル
コトトナスモノ多シ依テ關稅引下ヲ協定スルトスル
モ一律ニ稅率ヲ引下ケントスルカ如キ案ニハ同意シ
難ク各國夫々ノ關稅制度貿易狀態產業狀態等ヲ慎重
ニ考究ノ上互惠稅率協定ヲ締結スルノ外ナシト思考
セラル右互惠稅率ノ締結ノ商議ニハ相當ノ期間ヲ要
スヘキニ付國際經濟會議ニ於テハ差當リノ措置シ
テハ關稅引下休止ノ取極（國家生活ニ緊密ナル關係
ヲ有スル產業ノ爲メ爲スヘキ留保ヲ含ム）ヲ締結シ
關稅引下ニ付テハ單ニ將來關係國間商議及各國ノ國

内措置ニ依リ之ヲ實現スルニ努ムヘキ旨ヲ條約中ニ
規定シ又ハ決議スルカ如キ程度ニ止ムルノ外ナカル
ヘシ

(ロ) 關稅引上休止

關稅引上休止ニ付テハ條約中ニ關稅引上ヲナササル
ヘキコトヲ規定スルモノ（一九二九年國際聯盟經濟
委員會作成關稅休戰條約案及「ウーシー」協定參照）
ト條約中ニ關稅引上ヲ禁止スル規定ヲ置カス各國ハ
關稅引上ノ權利ヲ保留スルモ引上ノ場合ニハ豫メ之
ヲ相手國ニ通告シ商議ノ機會ヲ與ヘントスルモノト
アリ（一九三〇年國際聯盟通商協定及「オスロー」
協定參照）最近本邦品ニ對シ關稅引上ヲ實行スル國
少カラサル處本邦ニ於テハ圓貨下落ノ爲メ外國品ノ
輸入防遏セラレ居ル現狀ナルニ顧ミ關稅引上ヲ一定
期間絕對ニ禁止スルノ條約ヲ成立セシムルコト望シ
キ次第ナリ然レトモ本邦ニ於テハ前述ノ通り單稅制
度ヲ採用シ稅率亦低キ次第ナルヲ以テ國內重要產業
保護ノ爲メ今日ニ於テモ尙關稅引上ヲ要スト思考セ
ラレ居ル品目ナキニ非ス依テ關稅引上休止條約成立

(ハ) 収入關稅

關稅引上休止乃至引下ニ關稅收入關稅ハ例外トシテ
條約ニ依ル拘束ヲ受ケサルモノト認メ差支ナキヤ否
スルコトト致度シ

關稅引上休止乃至引下ニ關稅收入關稅ハ例外トシテ
條約ニ依ル拘束ヲ受ケサルモノト認メ差支ナキヤ否
スルコトト致度シ

ヤニ付テハ收入關稅ト保護關稅トノ區別ニ付明確ナル標準ナキヲ以テ右例外承認ノ結果本邦ニ取り不利ナル結果ヲ招致シ又國際間ノ紛議ヲモ生セシムルノ虞大ナルニ付之ヲ排斥スルコト得策ナラスト思考セラル力如キ場合ニ立至ラハ大勢ニ順應スルコトトシ差支ナキモ其ノ場合ニハ少クトモ收入關稅ノ意義ヲ明確ニスル定義ヲ定メ其ノ濫用ヲ防止スルコトト致度シ

(二) 最惠國條款

- (1) 一般方針

最惠國條款ハ本邦ト諸外國間通商條約ノ根底ヲナスモノニシテ從來我國ハ其ノ尊重ヲ主張シ來レリ最近圓爲替下落ノ影響ヲ受ケ本邦商品ノ海外輸出増進スルヤ諸外國ニ於テハ自國產業保護ノ爲メ關稅引上、輸入額割當等ノ手段ニ依リ本邦品ニ對シ不利益ナル差別的待遇ヲ與ヘントスルノ風アルヲ以テ特ニ最惠國待遇尊重ヲ主張スルノ必要增加セ差支ナシ

定率法第五條ノ二ニ掲クル不當廉賣防止稅ノ賦課ヲ不可能トナラシムルコトアラハ諸外國產業ニ依リ大規模ノ「ダンピング」行ハレ我國重要產業ヲ危殆ニ陥ラシムルノ虞ナシトセス仍テ本來ノ意味ノ「ダンピング」ニ付テハ之ニ依リ自國產業力危害ヲ被ルノ虞アルトキハ同稅ヲ賦課スルモ差支ナキコトト致度シ之ニ反シ爲替「ダンピング」ニ付テハ現在本邦商品力圓爲替下落ノ影響ヲ受ケテ諸外國ニ進出スルヤ之ニ對シ爲替「ダンピング」稅ヲ賦課シ又ハ賦課セントスル國少カラス今日ノ趨勢ノ儘ニテ推移センカ折角好轉シタル本邦輸出貿易ヲ衰運ニ向ハシムルノ虞大ナルモノアリ仍テ我方トシテハ從來爲替「ダンピング」稅ノ賦課ハ最惠國條款ニ違反スルモノナルコトヲ主張シ其ノ阻止ニ盡力シ來レル次第ナル處今次ノ會議ニ於テ爲替「ダンピング」稅ノ賦課ハ最惠國條款ノ適用ニ依リ阻止セラルヘキモノニ非ストノ見解力採用セラルル力如キコトアラハ今後爲替「ダンピング」稅設定ノ機運ヲ盛

(3) 多數國間條約ト最惠國條款

多數國間條約ニ依リ與ヘラレタル利益ニ付テモ最惠國條款ノ適用アリヤ即チ該多數國間條約ニ加入セサル第三國ハ最惠國條款ヲ援用シ多數國間條約ノ締約國ニ對シ同條約ノ規定スル利益ヲ與ヘンコトヲ請求スルコトヲ得ヘキヤ否ヤノ點ハ從來國際聯盟經濟委員會等ニ於テ屢々論議セラレタル處ナルカ本邦トシテハ前記最惠國條款尊重ノ趣旨ニ鑑ミ最惠國條款ヲ有スル第三國ハ多數國間條約ノ利益ニ均霑シ得ルモノナリト主張スルコトト致度シ蓋シ最近各地ニ經濟「ブロツク」構成セラレントスル模様アル處本邦ヲ中心トスル經濟「ブロツク」ノ組織セラルル見込少ク他方歐洲、南米等ニハ種々ノ「ブロツク」構成セラレントスルノ風アリ一旦多數國間條約ノ利益ニハ最惠國條款ノ適用及ハストノ原則カ樹立セラルル力如キコトアラハ本邦ニ

取り不利益ナル結果ヲ及ホスノ廣大ナルヲ以テナリ

尙國際聯盟又ハ其ノ指揮下ニアル國際機關ノ斡旋ノ下ニ成立セル國際條約ニシテ一切ノ國ニ對シ加入ヲ許ス條約ナルトキハ右國際條約ニ依リ同條約ノ締約國ニ對シ與フヘキ利益ニ付テハ同條約ニ加入セサル國ニ對シ最惠國條款ノ適用ヲ認ムルコトヲ要セストノ議論アル處歐米諸國ヨリ遠隔ノ地ニ在リ經濟狀態社會狀態等諸般ノ點ニ於テ歐米諸國トハ其ノ趣ヲ異ニスルコト大ナル本邦トシテハ此種國際條約ニテモ加入シ難キ場合少カラスト思考セラルルニ付此種國際條約ニ付テモ最惠國條款適用ノ例外ヲ承認セラルコトト致度シ

第六 生產及交易ノ組織化

(イ) 國際的經濟協定

現在ノ世界不況ノ一原因ハ需要供給ノ均衡ヲ得サル點ニアリ國際的經濟協定ヲ以テ需給ノ合理的調節ヲ圖リ世界經濟ノ恢復ニ資セントスル方針ニ付テハ本邦トシテモ主義上之ニ賛成シ差支ナシ然レトモ本邦

(ロ) 國内統制組織

前項ニ述べタルカ如ク生産及交易ニ關シ需給ノ調節ヲ計ル爲國際協定ヲ爲スハ主義上賛成ナルモ之カ實現ニハ種々ノ困難アルヘシト思考セラル依ツテ先ツ各國ニ於テ生産及交易ニ關シ當業者間ノ國內統制ヲ行ハシメ之ヲ基礎トシテ漸次國際協定成立ノ機運ヲ

促進セシムルハ最モ效果多カルヘシト認メラル此ノ見地ニ基キ各國政府ハ相協力シテ差當リ世界各國ノ

國內ニ於ケル生産及交易ニ關スル右統制組織ノ完成ニ對スル機運ヲ助長セシムル様申シ合セラルモノニ必要アルヘシ本邦ニ於テモ現ニ此ノ趣旨ヲ以テ國內統制ニ努力シ就中輸出ノ統制ニ就キテハ最モ意ヲ用ヒツヅアル處ナルモ今後モ亦國內統制ノ實現ニ對シ世界各國ト相協力スルノ用意ヲ有スルモノナリ

(ハ) 小麥ニ關スル經濟協定

小麥ニ付テハ輸出制限生産制限等ノ提案カ歐洲ニ於テ審議セラレ來レルモ本邦ハ小麥ノ生産國トシテ世界市場ニ於テ重要ナル地位ヲ占ムルモノニアラス現在ニ於テハ年額約五百萬石ノ小麥ヲ輸入シ居ル狀態ナリ政府ニ於テハ目下小麥增產計劃ヲ樹テ其ノ達成ニ努メ居ル現狀ナルヲ以テ小麥ニ關スル各種制限ノ經濟協定ニハ加入シ難シ

(二) 各種生產品ニ關スル經濟協定

其ノ他ノ生產品ニ付テモ本邦諸產業ノ經濟協定加入ハ困難ノ見込ナリ

ハ地理上歐米諸國ヨリ遠ク又其ノ產業狀態經濟狀態社會狀態等諸外國トハ其ノ趣ヲ異ニスル點渺カラサルヲ以テ或種產業ニ付具体的問題ノ發生シタル場合我方產業力之ニ加入スルコトヲ得ヘキヤ否ヤニ付テハ慎重ナル考慮ヲ要スヘク又當該產業團体ノ意向ヲモ參酌スルノ必要アルヲ以テ豫メ右ニ關シ我方態度ヲ決定スルコトハ困難ナリ尤モ主要原料ニシテ其ノ生産力或地域ニ限ラルモノニ付テ其ノ需給ヲ調節シ其ノ價格ノ安定ヲ計ルコトハ必要ト認メラルヲ

以テ之力爲國際的協力ニ依リ或種ノ協定力成立スルカ如キ場合ニ於テハ啻ニ生產國ノミナラス重要消費國モ之ニ參加シ其ノ國際的分配ヲ公正ナラシムル様適當ナル組織及管理ノ方法ヲ定ムルノ要アルヘシ

ヲ留保セントヲ希望スル品目表

一九二七年輸出入禁止制撤廢條約ノ第四條及第五條ニ掲

グル一般的留保並三第六條ニ掲タル特殊品目ニ關スル留保

(本邦ハ同條第一項ニ依リ米穀ノ輸入及輸出並ニ染料ノ輸

入ニ付留保シタリ)ガ其ノ儘維持セラルニ於テハ此ノ際

特ニ留保品目ノ追加ヲ請求セントスルモノニ非ザルモ今次

經濟會議ニ於テ右第五條ヲ削除シ又ハ之ヲ修補セントスル

場合モアルベキニ付我方ニ於テ輸出又ハ輸入ニ關シ禁止又

ハ制限ヲ加ヘ得ルノ自由ヲ留保セントヲ希望スル品目ヲ

掲ゲ参考ニ供セントスルモノナリ尤モ本表ニ掲タル品目全

部ニ付其ノ留保ヲ固執セントスルモノニ非ズ將來會議ノ推

移、帝國ノ全般的利益等ヲ考量シ留保ヲ撤回スルコトシ

差支ナキモノモアルベシ

米穀

輸出入

粟、高粱、黍、小麥及小麥粉

輸入

硫安及其ノ他ノ重要肥料

輸出入

染料

輸入

アルミニウム

輸入

礦油

輸入

錫、亞鉛、ニッケル、

本邦稅番九五 植物性揮發油

一、芳香性ノモノノ内

シトラネラ油、レモングラス油、ユーカリピタス油、

ラベンダー油、ゼラニウム油、ブチグレン油、丁香油、

ローズウツド油

本邦稅番二二九 別號ニ掲ゲサル藥材、化學藥及製藥ノ内

イオノーン、タピネオール

第三號

(昭和八年四月二十九日稿)
日米間互惠稅率協定締結ニ關スル帝國政府ノ方針(案)

米國政府ニ於テハ關稅引下ノ方針ヲ以テ各國ト互惠稅率協定ヲ

締結スルノ底意ヲ有スル模様ナル處日米間互惠稅率協定締結

問題ニ付テハ差當リ左記方針ヲ以テ折衝スルコトト致度シ

(一) 日米間互惠稅率協定締結ニ付日米兩國間貿易關係品目ニ

付詳密ナル研究ヲ爲スノ要アルヲ以テ差當リ一年間ノ期

間ヲ限り相互ニ關稅引上ヲ爲ササルヘキコトトシ將來互

惠稅率協定締結ノ目的ヲ以テ商議ヲ開始スヘキコトヲ申

乙號

關稅引上休止ニ關シ關稅引上ノ自由ヲ留保セ

シコトヲ希望スル品目表

船 舶

輸 入

關稅引下ニ關シテハ國際經濟會議ニ對スル帝國政府ノ方針(案)中ニ記載ノ如ク我方ニ於テハ國際條約ニ依ル一般的引下ニハ同意シ難シトナスモノナルガ關稅ノ引上休止ニ關シテハ其ノ有效期間ヲ一年以内トナスコトヲ條件トシテ之ニ贊成セントスルモノナリ然レ共一年以内ヲ有效期間トスル條約ニ於テモ左記品目ニ付テハ關稅引上ノ自由ヲ留保セ

ソコトヲ希望スルモノナリ尤モ左記留保品目ノ全部ニ付我方ノ留保ヲ飽ク迄モ固執セントスルモノニハ非ズ將來會議ノ推移、帝國ノ全般的利害等ヲ考量シ留保ヲ撤回スルコトトシ

トシ差支ナキモノアルベシ
米、粟、高粱、黍、小麥及小麥粉、人造藍其ノ他ノ合成染料、化學藥品、アルミニウム、寫真用フィルム、乾板及用紙、內燃機關、精密機械類、工作機械類、自動車、礦油類、鋼材(桂素鋼板、鍼力板、大口徑鋼管、鍍鐵、鐵リボン等)、

トシ差支ナキコト(尤モ右關稅据置ノ申合ニ當リ我方

ニ於テ留保ヲ要スル品目アリ右品目ハ國際經濟會議ニ對スル帝國政府ノ方針案附錄別紙乙號ト同様ナリ)

(参考)米國ノ現行關稅ハ一九二二年及一九三〇年ノ兩度ニ^{五カ}互リ廣汎ナル引上ヲ爲セル極メテ高率ノモノナリ他方我方關稅ハ比較的低率ニシテ引下ノ餘地乏シ然レ共賛澤關稅、從量稅三割五分附加稅中多少引下ノ餘地アルモノアルヘシ尙現行稅率中無稅ノモノニシテ其ノ据置ヲ約シ差支ナキモノモアリ右無稅據置ニテモ一

種ノ對償ト云フコトヲ得ヘシ仍テ日米間互惠稅率ノ交渉ニ當リ先方ニ與フヘキ對償絶無ニハアラスト雖右我方ヨリ先方ニ與ヘ得ヘキ對償極メテ少ク先方ニ對シ輕減ヲ希望スル關稅品目多キヲ以テ互惠稅率協定ノ交渉ハ困難ノ見込ナリ

(二) 日米間互惠稅率協定ハ無條件且無制限ノ最惠國條款ヲ基

(参考)右申合ニ依リ爲替「ダンピング」稅ノ賦課力行ハレサルコトヲ確保シ度キ考ナリ現行日米間通商條約中ノ輸入關稅ニ關スル規定ハ我方ニ於テハ無條件最

惠國待遇ト解シ米國品ニ對シ總テ諸外國トノ條約ニ依

リ協定セラレタル稅率ノ利益ヲ與ヘ居ル次第ナルモ解

釋上多少ノ疑義アリ將來米國カ諸外國ト互惠稅率協定

ヲ締結シ我方商品ニ對シ右協定ノ定ムル稅率ヲ適用セ

サルカ如キコトアラハ本邦ノ蒙ルヘキ損失少カラス

(三)一年以内ヲ有效期間トスル關稅引上休止ノ條約力國際經濟會議ニ於テ成立シ本邦ト緊密ナル利害關係ヲ有スル諸國カ之ニ加入スルニ至ランコトハ我方ノ切望スル所ナルニ付右國際條約ノ成立ノ爲協力スヘキコトヲ申合スコト(参考) 右關稅引上休止ノ條約ニ依リ爲替「ダンピング」稅率引上乃至新設ヲモ阻止シ度キ考ナルニ付單ニ一般關稅率ノ引上休止ノミニテハ不充分ナリ

124 昭和8年5月20日

在米國出淵大使より
在シカゴ武藤(義雄)領事宛(電報)

最惠國条款に関する訓令督促方石井全權へ要

請について

ワシントン 発

シカゴ 5月20日着

125 昭和8年5月21日 在シカゴ武藤領事より
内田外務大臣宛(電報)
石井・深井両全權より最惠國条款に関する方

針回示方請訓

シカゴ 5月21日後発

本省 5月22日前着

第一三四號 至急
石井、深井両全權ヨリ

第三九號(至急)
石井、深井両全權ヨリ

本全權等出發前御交付アリタル閣議了解事項中最惠國條款

ニ關スル項目ハ一時削除セラレアル處右ニ關シ再應御審議ノ上何分ノ御訓令ヲ遲クモ桑港ニ於テ接受スル事ト豫期シタルニ本廿一日市俄古ニ到着シタルモ未タ御訓電ニ接セス然ルニ明後日華府着ノ上直ニ開カルヘキ彼我意見交換ニ於テ最モ重要ナル最惠國條款ニ付御訓令無キ時ハ直接間接ニ之ニ關聯スル諸問題ニ付テモ本全權等意見ヲ述フルニ由ナキ次第故ニ右事情御洞察ノ上折返シ至急華府宛御訓電アル様切望ス尙御返電無キ時ハ通一機密連第五號參考添付別紙第二號ニ依リ適宜應酬シ置クノ外無シト思考セラル

第一三號 極秘
武富參事官へ
十九日館長符號ニテ大臣ヨリ右ノ通り入電アリ可然御取計アリタシ。

石井子爵へ

五月二日ノ閣議ニ於テ經濟會議ニ関スル訓令案一応ノ諒解ヲ經タルモ同案中最惠國條款ニ関スル項目タケハ將来再審議スルノ趣旨ヲ以テ一応削除セラレタル次第ハ御承知ノ通ナル處最惠國條款ニ関スル方針ノ重要性ニ鑑ミ其ノ再審議ノ促進方ニ付過般來関係省ト協議中ノ處右ニ付大藏省ニ難色アリ之カ為全般ノ訓令モ今日迄確定ニ至ラザル次第ノ處華府會商モ目曉ノ間ニ迫リ居ル此ノ際閣下ヨリ最惠國條款ニ関スル方針至急決定方御督促ヲ得ハ審議促進上誠ニ好都合ナル關係有ルニ付御手數恐縮乍ラ前記事情御諒承ノ上何分ノ儀電報ヲ煩ス様致シ度シ

126 昭和8年5月23日 内田外務大臣より
在米國出淵大使宛(電報)

閣議決定訓令案について

126 昭和8年5月23日 内田外務大臣より
在米國出淵大使宛(電報)

於テモ本邦ハ諸外國ト締結セル通商條約中ニ最惠國條款ヲ包含セシメ其ノ無條件且無制限ノ主張ヲ爲スヲ常ト爲

シ來レル處今日尙右方針ニ變更ナキヲ以テ今次ノ國際會議ニ於テモ最惠國條款ノ適用ヲ有條件トシ又ハ制限セン

トスルガ如キ提案ニハ反對スルコトト致度シ」

(同) 同八ノ末尾「詳細ノ方針」以下ヲ左ノ通修正ス

「詳細ノ方針乃至意嚮ニ付テハ別紙附屬書「國際經濟會議ニ對スル帝國政府ノ方針」御参照相成度シ」

二、前記(同)ニ掲タル別紙ハ通一機密連第五號参考添付別紙第二號ノ儘ニテ何等ノ修正ナシ

三、前記訓令ハ目下上奏手續中ナリ

本電要旨在英大使ニ電報シ佛獨伊波蘭及聯盟事務局長ヘ暗送セシメタリ

編注 本件承認は、五月二十三日付斎藤内閣總理大臣より内田外務大臣宛内閣外甲第三十九号により通達された。

127 昭和8年5月31日 在米国出淵大使より
内田外務大臣宛(電報)

ハル國務長官とモーレイ國務次官補との經濟

問題に関する見解の相違について

128 昭和8年6月12日 ロンドン國際經濟會議全權より
内田外務大臣宛(電報)

國際經濟會議の開催について

第六號

英國經濟會議六月十二日午後三時英國國王陛下親臨ノ下ニ

開催セラル勅語ニ次キ議長「マクドナルド」英國首相ノ開

會ノ辭及委任狀審査委員會(葡萄牙、埃及、「ヴェネズエ

ラ」)ノ組織アリ、休憩ノ後右委員會報告アリ次テ議長ノ

提議ニ依リ日、英、米、佛、獨、伊、露、蘭、西、瑞西、

匈牙利、「チエツコ」、支那、亞爾然丁、墨西哥、加奈陀

ノ代表ヲ以テ本會議ノ幹部會(Bureau)ヲ組織セリ

明十三日午前ヨリ一般討議ニ入ル

在歐米各大使、壽府全權ヘ轉電セリ

~~~~~

129 昭和8年6月12日 在米国出淵大使より  
内田外務大臣宛(電報)

三 ロンドン國際經濟會議

國際經濟會議に対する米國世論の動向について

ワシントン 5月31日後発  
本省 6月1日前着

第五二七號

本使發英宛電報第七五號ニ關シ

三十一日米國代表部ト共ニ倫敦ニ向ケ當地ヲ出發セル

Thurstonハ館員ニ對シ大統領ノ渡英ハ依然問題ニナラス

「ハル」ハ大體一ヶ月位ニテ歸國シ入レ代リニ大統領ノ就

任以來主トシテ建策ノ任ニ當レリト噂セラル「モーレイ」

カ渡英スヘシト語リ居リタル趣ナルカ此ノ點ニ關シ「ハ

ト「モ」トハ經濟問題ニ付相當見解ヲ異ニシ一方ハ飽迄モ

國際協調主義、他方ハ夫程ノ協調ニ非ス寧ロ米國本位ニ傾

キ居リ旁來ル可キ會議ニ於テ「ハ」ノ努力力不成功ニ終ル

場合ハ勢ヒ「モ」一派ノ主張カ勢ヲ得其ノ結果場合ニ依リ

テハ農業救濟法(「インフレイシヨン」輸入農產物ニ對ス

ル消費稅引上等ノ規定ヲ含ム)工業復興法其ノ他ノ既存國

内立法ニ基キ米國獨自ノ復興措置ヲ講スル事ニ直進スル事

トナル可シト信スル向有リ

英へ轉電セリ

~~~~~

當方面言論界ノ一二有力者カ會議ノ前途ニ對スル悲觀的觀

測ヲ下セル等ノ關係上會議開會ノ十二日當方面新聞カ一齊

ニ掲ケタル社説ハ殆ト異口同音會議ノ前途ニハ餘リニ多ク

ヲ期待スヘカラストナシ多クハ結局ノ處英米通貨ノ事實上ノ安定外國爲替取引ノ制限緩和等力其ノ達成スヘキ重ナル

事項ナルヘシトナシ又國情ヲ異ニスル六十六ヶ國ノ代表者

ヲ集メテ條約ヲ締結シ將來ヲ均一二拘束スルカ如キハ不可能ニシテ經濟會議ハ軍縮トハ異ナリ全會一致ニ依ラサレハ出來ヌ性質ノモノニアラス從テ總テノ國ニテ（脱）セシメンカ爲徒ニ空漠ナル妥協的文字ヲ含ム決議ヲ爲スモ從來ノ會議ト同様實行力ナキニ終ラン其ノ間ニハ「モーレー」ノ悲觀說ヲ後ニシ戰債及關稅ノ二大問題ニ付米國側ヨリ提供スルモノヲ有セシテ倫敦ニ赴ケル「ハル」以下米國代表部ノ困難ナル立場ヲ同情スルモノアル有様ナリ

經濟全權ヘ轉電セリ

英ヘ轉報シ在歐各大使ヘ轉電アリタシ

130 昭和8年6月16日

ロンドン国際經濟會議全權より
内田外務大臣宛（電報）

國際經濟會議總会一般討議における中國代表 などの演説について

キ支那ノ財政ノ近況並再建事業ニ對スル努力ヲ敍述シ
轉シテ銀問題ニ及ヒ現在ノ銀價ノ低落ハ他ノ物價上騰ト

共ニ終止スル望アル處銀價ノ引上ヨリモ重要ナルハ銀價ノ安定ナリ依テ銀力數億ノ人口ヲ有スル支那及印度ノ通貨ナル事情ヲ考慮シ金貨幣ノ安定ト同時ニ銀價ノ安定モ考慮セラレンコトヲ望ムト述ヘ次テ支那人及他ノ亞細亞人中亞細亞ハ歐洲ニ學フ所無シ「亞細亞人ノ亞細亞」又ハ亞細亞「モンロー」主義ヲ說キ東洋ニ於ケル低キ生活

程度ノ下ニ西洋ノ「テクニック」ヲ取入レ以テ世界市場ヲ占據スヘシト主張スル者アルモ吾人ハ斯ル國家主義的
地方的孤立政策ヲ排スル者ナリ吾人ハ支那ノ消費力ノ増進ヲ計リ生活程度ノ向上ヲ計ラントス而シテ其ノ爲ニ西洋ノ資本ト技術トヲ歡迎シ外國商品ノ輸入ヲ妨ケサル如キ財政政策ヲ維持セントスト說明

更ニ關稅自主權ノ回復ニ言及シ吾人ハ自主權ヲ利用シテ保護關稅ヲ設ケタル事無ク唯直接稅ノ徵收困難ニシテ關稅收入力財政上極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ顧ミ純然タル收入關稅ヲ課シ居ルニ過キスト述ヘ結論トシテ本會議ノ目的トスル財政經濟問題力軍備及安全問題ト密接ナ

ロンドン 6月16日前發
本省 6月16日前着

第二四號

十五日午前午後ニ亘リ一般討議續行葡萄牙、支、加奈陀、「アイルランド」、「ドミニカ」、土耳其、「アルバニア」、「メキシコ」、「ペルー」、希臘、「ラトヴィア」、「ハイチ」、「エストニア」、「ヴェネズエラ」、「ニュージーランド」ノ各代表ノ演説アリ右ニテ一般討議ヲ終了セルニ付明十六日ヨリ經濟、財政兩委員會ヲ開催ス尙本日總會ハ幹部會ノ提案ニ基キ經濟委員會議長Colijn（和蘭）副議長Krogmann（獨）、Breton（「アルゼンティノ」）（報告者未定）財政委員會議長Cox（米）、副議長Jungセリ本日ノ主ナル演説ノ要旨左ノ通

（一）支那、宋子文、支那カ生産過剩ニシテ且購買力ノ微弱ナルコトヲ説明シタル後支那國民ノ生活程度向上センカ自國ノ工業產品ヲ消費シ盡スノミナラス世界ニ向ツテ一大市場ヲ提供シ世界繁榮ニ資スル所鮮カラサルヘク又同時に支那ハ最大ナル生産的投資ノ目的地ト爲リ得ヘシト說

（二）加奈陀首相「ベネツト」
通貨ノ安定及物價ノ引上ノ必要ヲ說キタル後加奈陀政府ハ本會議中關稅休戰ノ實行セラルル事ニ同意ヲ與フルト同时ニ休戰ノミニ止ラス進シテ關稅ノ「レベル」引下ニ付決定的「プログラム」ヲ見出スノ要有リト主張ス
米ヘ轉電シ在歐各大使壽府ヘ郵送ス

131 昭和8年6月18日

ロンドン国際經濟會議全權より
内田外務大臣宛（電報）

經濟不侵略に關するソ連提案の対応につき請訓

往電第一六號（五）及第二三號ニ關シ
（一）經濟侵略及「ボイコット」カ世界通商ノ障碍タルノミナラス延テ國際通商條約ノ破綻ヲ來スノ惧アリ殊ニ支那ニ於ケル對日「ボイコット」問題ニモ關聯アルニ付蘇聯邦代表ノ提出セル決定案ニ對シテハ少ク共主義上之ニ同意スヘキ

249

ロハムハ 6月20日前発

本省 6月20日前着

第三七號(至急)

間ノ繫争問題ヲ指スノ疑アル處斯ル二ヶ國間ノ繫争問題ハ
經濟會議ニ於テ論議スベキモノニ非ストノ理由ノ下ニ同案
ノ字句等ニ付テハ相當緩和ノ必要アルベシト考へ居レリ
右決議案力會議ノ日程ニ上ラハ以上ノ趣旨ニテ行動スル考
ナル處右ニテ差支無キヤ爲念御訓示ヲ請フ

(三) 尚我國紡績聯合會ハ先般印棉不買ノ決議ヲ爲シタル由ナ
ルカ右ハ同業者間ノ申合ニ過キシテ之ヲ國民的不買同盟
ト觀ルベキニ非スト説明シ得ベキヤモ知レサレントヤ政府ハ
於テ當業者ニ說得ヲ加ベラレ少クトモ會議中之ヲ制止シ得
ラルレハ會議ニ於ケル我立場ヲ良クスベキ處兎ニ角前項ノ
蘇聯邦提案ト我印棉不買問題トノ間ニハ矛盾アリトノ批評
モアリ其ノ邊ニ關スル説明振リ何分ノ儀御回電ヲ請フ

~~~~~  
132 昭和8年6月20日 ロハムハ 6月19日後発  
内田外務大臣宛(電報)  
金および銀問題などに關する米国提案(1)ハ  
別電 六月十九日発ロハムハ 国際經濟會議全權  
モアリ其ノ邊ニ關スル説明振リ何分ノ儀御回電ヲ請フ

## (別電)

ロハムハ 6月19日後発  
本省 6月20日前着

No. 38

<sup>(1)</sup>

Whereas, confusion now exists in field of international  
exchange, and

Whereas, it is essential to world recovery that an  
international monetary standard should be reestablished,  
Now therefore, be it resolved that all nations  
participating in this Conference agree

(A) That it is in interests of all concerned that

stability in international monetary field be attained as  
quickly as practicable;

(B) That gold should be reestablished as international  
measure of exchange values;

(C) That use of gold should be confined to its  
employment as cover for circulation and as medium of  
settling international balance of payment. This means  
that gold either in coin or bullion will be withdrawn  
from circulation;

(D) That in order to improve workings of future  
gold standard uniform legal minimum gold cover for  
currencies of various countries which shall adopt gold  
standard shall be established and that this legal minimum  
reserve shall be lower than average of present reserve  
requirements;

(E) That central banks of various nations be requested  
to meet at once in order to consider adoption of such  
uniform minimum reserve ratio and that metal cover of  
25% be recommended for their consideration,

Whereas silver constitutes important medium of  
both international and domestic exchange for large  
proportion of world's population and

Whereas value of this purchasing medium has been  
impaired by governmental action in past and

Whereas it is necessary that confidence of East  
should be restored in its purchasing medium which can  
only be done if price of silver is restored to equilibrium  
with commodity price levels,

Now therefore be it resolved that

(A) An agreement be sought between chief silver  
producing countries and those countries which are  
large holders or users of silver to limit arbitrary sales  
upon world market;

(B) That all nations agree to prevent further debase-  
ment of their subsidiary silver coinages;

(C) That all nations agree to remonetize their  
subsidiary coinages up to fineness of at least 800 when,  
as and if consistent with their respective national budget

problems ; and

(b) That it be recommended to central banks that they agree that 80% of their metal cover shall be in gold and 20% shall be optionally in gold or in silver, provided that silver is obtainable at or below price to be agreed upon as corresponding to general commodity price level ; and that governments agree to modify their respective laws to this effect.

Zenken.

133 昭和8年6月20日 ローナン国際経済会議全権より  
内田外務大臣宛(電報)

国際経済会議財政委員会における通貨信用政策に關する英國提案並びに銀問題などに關す

米国提案の討議状況について

別電 六月二十日発ローナン国際経済会議全権より

内田外務大臣宛第五〇号

右英國提案

口ナラハ 6月20日後発  
本省 6月21日後着  
<sup>(1)</sup> 第四九號  
財政委員會兩分科會二十一午前午後開催議事經過大要左ノ通

#### 「第一分科會

往電所報ノ通說明附議題ノ順序ニ依リ信用政策及物價ヲ議題トシ英國藏相ヨリ別電第五〇號決議案ニ關シ説明附議題ヲ引用シテ提案理由ヲ述ヘ更ニ決議案第三點即チ中央銀行間ノ協力ニ關シ細目ノ研究ヲ爲ス爲中央銀行代表ニ政府代表者ヲ加ヘタル小委員會ヲ設置スベシト爲シ

印度、南ア、豪洲、玖馬及葡萄牙代表ハ決議案ヲ支持シタルモ和蘭代表ハ物價引上ハ通貨上ノ措置ノミニ依リ實現困難ナリシテ通貨膨脹ニ依ル物價引上ニ反対シ又「オープ

ン・マーケット、オペレーシヨン」ニ依ル信用擴張ノ協調ハ中央銀行ノ通貨安定ノ責任ト相容レストテ決議案ノ趣旨ニ反対ノ意図ヲ表明シ新決議案作成ノ爲小委員會設置方提案智惠古代表ハ大体和蘭代表ノ說ヲ支持セリ明日討議續行<sup>(2)</sup>第二分科會

1、往電第三八號米國案前半(A)及(B)ヲ分科會決議トシテ滿場一致採擇ス但シ英代表「ユールシャム」ノ提議(深井全權支持ス)ニ基キ(B)ノ末尾「time-and parity being for each country to determine」附加ス

「米國案後半」<sup>(1)</sup>銀問題小委員會(議長「ジラード」)英、伊、墨西哥、和蘭、加奈陀、印度、支那、日本、西班牙各國代表)ニ附託ス

「米國案前半(C)乃至(C)等ノ技術的問題ヲ考究スル爲技術小委員會(印、獨、南阿、「オーストリア」、臼耳義、伯刺西爾<sup>(2)</sup>、智惠古、米、「ポルトガル」、佛、英、蘭、「ギリシャ」、瑞典各國代表及國際決裁銀行總裁Fraser)」ヲ設ク

既述深井全權ヲ米國提案前半(D)及(E)中「uniform minimum reserve ratio ュアル處本案ニ依リ日本ノ如キ制度ヲ採ハ國川對シ比例準備制度ヲ強制スル趣向ナリヤニ實體タル」對シ應答ヲ重ねタル上米國側ハ結局本案ニ依リ各國ノ制度變更ヲ強要スル趣旨ニ非スト答へタリ

〔別電〕

ローナン 6月20日後発  
本省 6月21日後着  
252

口ナラハ 6月20日後発  
本省 6月21日後着  
<sup>(1)</sup> 第四九號  
財政委員會兩分科會二十一午前午後開催議事經過大要左ノ通

ローナン 6月20日後発  
本省 6月21日後着  
No. 50

1. It is essential to bring about recovery in world level of wholesale commodity prices sufficient to yield economic return to producer of primary commodities and to restore equilibrium between costs of production and prices generally.

2. In order to obtain recovery in world prices monetary action is one of essential factors. Fundamental monetary conditions of recovery of prices are that deflation should cease that cheap and plentiful credit should be made available and that its circulations should be actively encouraged.

3. Central Banks of principal countries should undertake to cooperate with view to securing these conditions and should announce their intention of pursuing vigorously policy of cheap and plentiful money by open market operations.

Zenken.

134

内田外務大臣より  
ロンドン国際経済会議全権宛(電報)

ノ連の經濟不侵略提案に対しでは最惠国待遇

保障などの觀点から対処方訓令

本省 6月22日後8時40分発

貴電第三六號ニ閔シ

第七號

(一) 「ソ」聯邦決議案ハ主義上賛成ナルモ「ソ」聯邦ノ意図及國情ニ鑑ミ本提案ノ真意ハ充分ニウケ止ムルノ要アルベシ又最近形式上ノ差別的待遇ヲ避け乍ラ實質上本邦品進ンデハ最惠國條款ヲ包含スル通商條約ヲ廢棄シテ公然差別的待遇ヲ爲サントスル國スラアルニ鑑ミ我方ニ於テモ此等諸國ニ反省ヲ促シ我方利益ノ確保ヲ計ル爲本邦関稅制度ニ適當ナル改正ヲ行ヒタル上諸外國ト交渉シ最惠國待遇ト本邦重要輸出品ニ對スル公正ナル關稅率ノ保障トヲ確保スルコトノ急務ナルヲ認メ右ニ閔シ内々審議ヲ度シ

(二) 貴見ノ通取計ハレ差支ナシ

(三) 印棉不買決議ハ御來示ノ通國民的一般的不買同盟ニ非ズ又何等政治的動機ヲ有セズ棉花購入ト直接ノ關係アル紡績業者等ガ自己製品ノ印度向輸出ヲ不可能ナラシムル程度(客年八月末印度綿布關稅一般稅率從價三一1/4%ヨリ五〇%ニ引上ゲ今英特惠稅率二五%ニ据置タル為本邦綿布ノ對印輸出減少シ英國品ノ進出ヲ見タルハ客年七月本邦品六九、九八九千平方碼、英國品五七、四〇五ヲ本年三月本邦品四三、〇八七英國品六五、〇四八ニ比スレバ明ナル處印度政府ハ更ニ本年六月七日一般稅率ヲ一舉七五%ニ引上ゲ英特惠稅率ハ從來通ニ据置キ英國品ニ

對スル特惠ヲ五〇%ニ拡大セリ右ノ結果本邦綿布ノ利益

ヲ「マージン」皆無トナリ向後ノ輸出不可能ナリト観測セラル)ノ高率關稅ヲ課セラレタル為其材料タル棉花ノ當分ノ買付停止Suspensionヲ自發的ニ行ヒ以テ原料ト製品トノ相互依存關係ヲ如實ニ示シ印度側ノ反省ヲ促サムトスルモノニ不過又支那ニ於ケル「ボイコット」ノ如ク經濟斷交ヲ目標トシ又ハ政府ト密接ナル關係ヲ有スル團体ガ直接間接ニ閔與シ在留外人ノ生活ノ自由ヲ奪ヒ一般人民ニ対シ暴力サヘモ行使スルコトアルガ如キモノトハ全然其ノ性質ヲ異ニセリ帝國政府ガ誠意ヲ以テ外交手段ニ依リ日印間ノ經濟問題解決ニ盡力中ナルコトハ御承知ノ通ナルニ付外國ノ誤解ヲ招カザル様適宜御説明相成度シ

貴電第三七號ニ閔シ

一銀貨ノ品位量目ヲ現在以下ニ引下ケサルコトニ閔シ現状ニ於テハ本件ニ同意スルコト、致シ差支ナシ但シ將來銀塊相場ノ著シキ昂騰或ハ爲替相場ノ甚シキ下落ヲ見銀貨鑄潰ノ懸念ノ生セル場合ハ此限ニアラス

二銀貨ノ品位量目ヲ増加スル案ニ閔シ財政上可能ナル場合トハ貴電第三八號ノ二C末段ノ如キ意味ナリトセハ本案ニ同意スルコト、致シ差支ナシ

三小額紙幣ニ代フルニ銀貨ヲ以テスル案ニ閔シ本邦ノ一円兌換銀行券ヲ回收シテ銀貨ヲ以テ之ニ代フル件ニ付テハ新「ニッケル」貨幣ノ鑄造ニ伴ヒ五十錢銀貨ヲ廢シ「ニッケル」貨幣トシ一圓銀貨ヲ鑄造セントスル案考慮セラレタルコトアルモ今日迄ノ処何等決定ヲ見居ラサルニ付右事情御含ノ上善處スルコト、致度シ

135

昭和8年6月22日 内田外務大臣より

ロンドン国際経済会議全権宛(電報)

銀問題に関する米国提案に概ね同意方訓令

本省 6月22日後9時10分発

第八號 至急

進メ居ル事情アリ次第ニ依リテハ本邦ニ對シ不當ナル壓迫ヲ加フル國ニ對シ差別的高率關稅ヲ課スルコトアルベク又「ダンヒング」稅ヲ課スルノ必要ヲ生スルコトモナキニ非ズ「ソ」聯邦提案ハ其ノ内容漠然タルヲ以テ右ノ如キモノヲモ禁止セントスルモノナリヤ不明ナルモ本案審議ニ當リテハ前記事情御含ミノ上可然御取計相成度シ同電御携行ノ「主要往復電報及公信」中ニアリ)

キニ非ズ「ソ」聯邦提案ハ其ノ内容漠然タルヲ以テ右ノ如キモノヲモ禁止セントスルモノナリヤ不明ナルモ本案審議ニ當リテハ前記事情御含ミノ上可然御取計相成度シ同電御携行ノ「主要往復電報及公信」中ニアリ)

經濟委員会第一分科会において最惠国条款の無条件適用に関する我が方主張表明について

ロハシノ 6月22日後発

本省 6月22日後着

第五八號

次テ本分科會審議事項中通商障碍問題ニ付討議ヲ行ヒタル  
力更ニ二十二日續行ノコトトセリ

二十一日午後經濟委員會第一分科會（通商政策）第一回會合（非公開）議長（獨逸代表「クロクマン」）ベ先ツ獨逸ノ通商政策ハ鎮國的ニ非スト「ナチス」政府ノ方針ヲ釋明シ次テ分科會ノ議事ニ入リタルカ石井全權ヨリ討議ノ最初ニ最惠國條款ノ無條件適用ニ關スル我方ノ主張ヲ表明シ置クヲ適當ト思考シ劈頭發言ヲ求メ本邦トシテハ最惠國條款無條件適用ノ原則ハ國際貿易恢復ニ最モ緊要ナリト思考ス準備委員會モ亦明カニ之ヲ認メ居レリ又本邦政府ハ國際貿易自由ノ精神ニ立脚シ各種通商障礙ノ撤廢ヲ要望ス但シ口ム無キ場合ハ其ノ弊害ヲ能フ限り緩和スルヲ要スト述ヘ更ニ本邦側ニ於テ今日迄一切通商障碍トナルベキ制度ヲ設ケス爲替管理モ單ニ資本逃避防止ノ範圍ニ止メ貿易自由ヲ保障シ居リ他國ノ態度ニ依リ變更ヲ餘儀無クセラルニ非サル限り將來モ此ノ方針ヲ維持スル考ナリト說明シ世界通商ニ對スル各種人爲的障碍ノ除去ニ對シ各國ノ贊同ヲ希望シ置ケリ

137 昭和8年6月22日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)  
為替の暫定的安定問題に關する米國代表のス  
テートメントハ云々

ロハシノ 6月22日後発  
本省 6月23日前着

No. 61.

二十二日米國代表部ハ左記「ステートメント」ヲ發表セリ  
Undue emphasis has been placed upon consideration of plan proposed for temporary de facto stabilization of currencies.  
Fact is that this was never affair of delegation. It was considered by representatives of Treasuries and Central Banks of United States, Great Britain, and France, Dr. Sprague having been especially sent to represent United States Treasury for this purpose.

American Government at Washington finds that measures of temporary stabilization now would be untimely.

Reason why it is considered untimely is because American Government feels that its efforts to raise prices are most important contribution it can make, and that anything that would interfere with those efforts and possibly carry violent price recession would harm Conference more than lack of immediate agreement for temporary stabilization.

As to ultimate objective, American Delegation has already introduced resolution designed for ultimate world-wide stabilization of unstable currencies and is devoting itself to support of measures for establishment of coordinated monetary and fiscal policy to be pursued by various nations in cooperation with each other, for purpose of stimulating economic activity and improving prices.

ロハシノ 6月23日前発  
本省 6月23日後着

第六七號

138 昭和8年6月23日 ロハシノ國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

經濟委員會第一分科會における輸入禁止制限  
撤廢など通商政策に關する問題の討議状況  
ハシメ

ロハシノ 6月23日前発  
本省 6月23日後着

二十二日午前經濟委員會第一分科會（通商政策）（非公開）ハ引續キ通商制限問題ニ關シ討議ヲ行ヒタルカ右ニ付テハ「諾威ハ一九二七年ノ禁止制限撤廢條約ヲ審議ノ基礎レス  
キヲ提議」  
「英國ハ通商政策ノ爲ニスル輸入禁止ノ廢止、專斷的輸入割當制ノ漸進的廢止、清算協定及物々交換取極ノ廢止、過當ナル關稅ノ弔<sup>○</sup>（二國間ノ協定ニ依ルヲ適當ト認メ  
之カ爲各國ニ於テ速ニ商議ヲ行フコトヲ勸奨ス）二國協定ニ依ル關稅引下ニ對スル最惠國條款ノ適用（但稅率編成及新協定商議ニ於テ穩當ナル政策ヲ執ルコトヲ條件ト  
シ又既ニ一般ニ承認セラレタルカ如キ歴史的關係ニ基ク

地方的又ハ「グループ」協定ヲ除外ス)等ヲ趣旨トスル

長文ノ決議案ヲ提出シ(以上二十一日ノ會議ニ於テ)

三、米國ハ各種制限ノ撤廃、二國間又ハ多數國間ノ協定ニ依

ル關稅障壁低下及右協定ニ差別的ノ點ヲ設ケサルコトヲ

趣旨トスル簡単ナル決議案ヲ提出セリ(關稅一割一律引

下ノ如キニハ言及セス)

右一、諸威案ニ同意スル者モアリ(白、蘭等)我方モ一九

二七年條約ヲ基礎トシテ審議ヲ進ムルコトニ賛成シ置キタ

ルカ英國ノ如キハ同條約ハ何等實際ノ效果無キヲ以テ同國

ハ之ヨリ脱退スルコトシタル次第ニテ今又同様ノ條約案

ヲ論議スルモ無益ナリト爲シ又佛國始メ中歐諸國ノ如キハ

同條約ハ現在ノ實狀ニ適セス諸國ノ採用シ居ル輸入制限乃

至ハ割當制度ハ或ハ國際貸借改善ノ爲ニ或ハ債務國ノ債權

國ニ對スル資金支拂ヲ容易ナラシムル爲或ハ貿易關係調整

ノ爲或ハ自國農業保護ヲ有效ナラシムル爲實際上ノ必要

ニ基クモノナレハ一般條約ニ依リ之ヲ廢止スルカ如キハ不

可能ニシテ其ノ撤廢乃至ハ緩和ハ二國間ノ互惠的協定ニ依

ル外ナシト論シ意見多岐ニ分レ一致ヲ見ス依テ議長ニ於テ

事務局ト協力シ諸提案ノ趣旨ヲ整理シタル上明ニ十三日更

二討議ヲ續行スルコトトセリ

139 昭和8年6月27日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

ソ連の經濟不侵略提案などに関する英国外相

との会談について

ロンドン 6月27日後発

本省 6月28日後着

第八一號

(石井全權ヨリ) 脱?

約ニ依リ二十七日正午外務省ニ行キ「サイモン」外相ト面會ス先ツ本官ヨリ過日首相ト面談以來海峽殖民地ニ於ケル關稅問題起リ日英通商關係寧ロ惡化シタル感アリト述フル

ヤ外相ハ

第一、日印通商關係ニ關シテハ英本國ハ所謂「ファイスカル、コンヴェンション」ニ依リ印度政府ノ自治ヲ承認シテ以來財政問題ニ關スル限り印(度)ハ他ノ自治領ト同シク英本國ノ干渉ヲ許サス財政事項ニ關スル英印間ノ關係ニ今後變化アリトセハ印(度)ノ自治ハ歩一步ト其ノ範圍ヲ擴張ス

ヘク要スルニ英本國ハ印度財政事項ニ關シ何等容喙ノ權ナク從テ過般印度政府カ稅率ヲ高メタルノ動機ハ決シテ日本ノ或ルモノカ邪推スル如ク英國ノ「インスピレイション」ニ出ツルモノニアラサルコトヲ斷言ス

第二ニ海峽殖民地ハ印度ト異ナリ新嘉坡、馬來等何レモ變

手古ナル制度ノ下ニアリ之ニ關シテハ他ノ「クラウンコロニー」ノ如ク我國ノ責任下ニアリト言ハサルヲ得ス(脱?)

茲ニ本官ハ過日首相ト意見交換ノ續キシテ我國カ「ソビエート」ノ思想宣傳ト支那ノ經濟絶交トノ二重ノ脅威ヲ受

ケツツアルコトヲ述ヘ米國大統領ニ對シテ述ヘタルト稍同様ノ事柄ヲ簡單ニ説述シタル上侵略ノ定義ノ不可能ナル所

以經濟侵略ヲ豫メ禁制シ置クノ必要ハ軍事侵略ニ讓ラサル所以ヲ說キ最後ニ過日「ソビエート」代表ハ經濟侵略防止案ヲ經濟會議ニ提出セルカ「ソ」案ノ經濟侵略防止案ニハ何等ノ政治的動機ノ潛入スルヤモ知レス自分ノ宿論タル經濟侵略ノ考ハ「ソ」案ト混同セラレサランコトヲ望ムト結

之ニ對シ「サイモン」ハ過日首相ノ御會談ノ趣ハ首相ヨリ委細承知セルカ自分モ侵略ノ定義ヲ與フルノ企ハ遂ニ不可

ヘリ

(<sup>(2)</sup>) 見交換ヲ其ノ内今一度致度シト言ハレ本官ハ欣然之ヲ諾シ此ノ時他ノ會見豫約者來リタルニ付外相ハ本日ノ面白キ意

件ヲ此ノ上強ク主張スルモノハナキヤニ思ハルト述ヘタリ

此ノ時他ノ會見豫約者來リタルニ付外相ハ本日ノ面白キ意

見交換ヲ其ノ内今一度致度シト言ハレ本官ハ欣然之ヲ諾シ

追加、前記支那ノ經濟絶交ヲ論スルニ際シ本官ハ支那ノ「ボイコット」乃至經濟絶交ノ何物ナリヤヲ知ルモノハ蓋シ列國中親シク其ノ苦キ經驗ヲ嘗メタル日英兩國ノ外ニ一國モ有ラサルヘク之ヲ解セサル連中力壽府ニ集リテ問題ノ行動ヲ輕々シク決定スルカ如キ條約ハ安全保障トナリ得サルノミナラス却テ反対ノ結果ヲ見ルコトアルヘクスル條約ニ我國カ加入シ得サルハ云フ迄モナシト述ヘタルコトアリ「サ」ノ前掲芝ノ例ハ以上本官ノ述ヘタル所ト對照シテ御

一讀アリ度シ

米、在歐各大使（土ヲ除ク）軍縮全權へ轉電セリ

140 昭和8年6月28日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛（電報）

經濟委員会第一分科会における關稅問題討議  
に際し關稅の一律引下げ案には賛成しかねる  
旨主張について

ロンドン 6月28日後発  
本 省 6月29日前着

ノ三項ヨリナル提案ヲ爲シタルカ右ノ内(二)ニ付二國間協定ノミナラス多數國間ノ協定モ有效ナリトテ Ouchy 條約ノ例ヲ舉ケ右適用上ノ困難ハ最惠國條款ニアリ

Ouchy 條約ハ相互主義ニ依リ實質上締約國ト同様ノ犠牲ヲ供與スル國ニアラサレハ均霑セシメス然レトモ其ノ内容ハ通商ノ障害トナルモノニハアラス且各國ノ加入ヲ認メ居ルヲ以テ斯ノ如キ條約ハ最惠國條款適用ヨリ除外ヲ除外スルコト

廿八日經濟委員會第一分科會ハ關稅問題討議續行、主ナル議論ノ要旨左ノ如シ尙我方ハ此ノ機會ヲ利用シ松平全權ヨリ後記ノ通り陳述シ置ケリ

一、白耳義代表ハ關稅ニ關シ

(一)五月十二日ノ休戰ヲ相當期間（經濟財政恢復ニ必要ナル通商ノ安定ヲ保障スルニ充分ナル）延長スルコト  
(二)多數國又ハ二國間ノ交渉ニ依リ適當ナル關稅ノ漸進的引下ヲ爲スコト

(三)國際貿易ニ關スル制度改善ヲ目的トスル國際條約ニシテ總テノ國ノ加入ヲ認ムルモノニ付最惠國條款ノ適用

スル主義ヲ本會議ニ於テ承認スヘシト論ス  
二、和蘭代表ハ本會議力不成功ニ終リタル場合同國政府トシテ如何ナル政策ヲ採ルヘキヤ未定ナルニ付此ノ際論議モ出來ル丈ケ慎重ナラサルヲ得スト前提シタル上同國ノ關稅政策ハ自主的政策ヲ主トシ來レルモ右ニテハ充分ナラス二國協定、一般協定乃至ハ多數國協定ヲモ考慮ノ要アリト思考ストシ最惠國條款ニ付テハ和蘭ハ從來之ニ忠實ナル政策ヲ採り來レルモ今日ニ於テハ幾分變更ノ要アルヘシトテ稅率引下ニ關スル協定割當及 Ouchy 條約ノ如キ國際協定ヲ最惠國條款適用ヨリ除外スヘシト述ヘ Ouchy 條約ノ如キ趣旨ノ協定ヲ採用スヘキヲ慇懃セリ  
三、諾威代表ハ「オスロー」條約ノ趣旨ヲ説明シタル上先ツ關稅休戰ヲ延長スヘキヲ述ヘ右休戰ニハ諸國ノ留保多キモ各國ヲ平等ノ地位ニ置クヲ要ス「オスロー」條約ノ如キ方法ヲ設クルモ一案ナルヘシトシ次ニ關稅引下ノ必要ヲ論シ方法トシテハ二國協定ハ複雜ニシテ時日ヲ要スヘキニ付一般的條約ヲ作成シ過當ノ關稅ヲ速ニ引下クルコト及其ノ他ノ保護的關稅ハ二國協定ニ依リ漸進的ニ引下クルコトトスヘシト述フ

ヲ事實上無効ナラシムルカ如キ除外及留保ハ出來得ル限  
リ少カラシムルヲ要ス

141 昭和8年6月29日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

通商制限問題に関する起草委員会においてク  
ロッグマン第一分科會議長が日本の為替ダン

ピングに言及について

ロンドン 6月29日前發  
本 省 6月29日後着

第九五號

往電第七八號ニ關シ

通商制限問題ニ關スル起草委員會ノ會議ハ秘密會ナルカ字  
佐美ヲシテ便宜傍聽セシメ居ル處廿六日及廿七日ノ兩回ニ  
於テ如何ナル趣旨ヲ以テ起草スヘキヤニ付種々意見ノ交換  
アリタル結果最後ニ英國代表ヨリ此ノ際詳細ノ點ニ亘ル案  
ヲ作ルコトトセハ到底意見ノ一致ヲ見ルコト不可能ナルヘ  
キヲ以テ寧ロ比較的概括的ノ決議案ヲ作成スルコトトシ此  
ノ趣旨ニテ兎ニ角事務局ヲシテ起案セシメタル上審議ヲ進

ムヘキ旨提議アリ右ニ決定シタリ尚廿七日ノ會議ニ於テ第  
一分科會議長「クロッグマン」ハ獨逸代表トシテニアラス  
國商相「ランシマン」トモ種々話合タルカ吾人ハ餘リ政策  
論ニ走り過クル嫌アリ今少シク實際問題ヲ議スル様スヘク  
吾人ハ各國ノ防衛措置ヲ放棄スル能ハス此ノ趣旨ヨリ三個  
ノ重大問題アリトテ(一)債務ノ支拂ハ終局ニ於テ商品ヲ以テ  
スル外ナキコト(二)爲替「ダンピング」及(三)「ソ」聯邦ノ商  
品投賣問題ヲ擧ケタルカ就中(二)ニ付テハ特ニ日本ノ場合ヲ  
指摘シ本邦爲替ハ五十乃至六十%下落シ爲ニ日本商品ハ極  
メテ廉價ニテ各方面ノ市場ニ進出シ居レリト述ヘ以上三個  
ノ問題ハ速ニ解決ノ要アリ遲延セハ解決益々困難トナルヘ  
シト述ヘタル趣ナリ右ニ對シニ、三代表ハ之ニ言及シタル  
カ何レモ問題ノ重要性ヲ認メ居ルモ爲替「ダンピング」問  
題ハ結局ニ於テ爲替安定ノ問題ナリトカ或ハ輸出ノ間接保  
護ノ問題ナリトカ述フル程度ニテ進テ内容ニ付討議スルニ  
ハ至ラスシテ終レル由ナリ

142 昭和8年6月30日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

通貨為替安定問題に関し米英の為替安定を希  
望する旨の対応につき請訓

ロンドン 6月30日前發  
本 省 6月30日後着

第九九號

(1) 通貨問題ニ關スル議事ニ付テハ

(イ) 恒久的措置タル金本位復歸問題ハ往電第四九號後段第

二分科會一及第九二號所報ノ如ク第二分(科會)ニ於  
テ大体ノ成案ヲ得タルカ金本位復歸ノ時期及「パリテ  
イ」ニ付テハ各國ノ適宜決定スルコトナリ居リ當分  
(脱?) 方針採擇セラレ居レリ

(ロ) 當面ノ措置ニ付テハ第一分科會議題諸項目中信用政策  
物價引上及債務整理等ニ付テハ一般討議ヲ了シ決議案

文起草中ナル處通貨動搖ノ制限ノ問題ハ未タ審議セラ  
レス

二、今日迄ノ會議ノ大勢ヲ見ルニ通貨問題議題各項目ノ討議  
ヲ通シテ大多數ノ代表ハ爲替安定ノ必要及本件ノ決定ヲ

(イ) 本邦ノ經濟其ノ他特殊事情ニ徵シ事實上ノ通貨安定ノ

確約ヲ爲スコト困難ナル立場ニアリ即一定ノ安定點ヲ決メ事實上ノ通貨安定ヲ企圖スルハ結局將來ノ通貨安定ノ前提トモナルヘキモノナル處此ノ種ノ安定點ヲ定ムコト困難ナリ差當リ内地諸般經濟調整ノ必要ヲ有ス又此ノ種ノ確約ヲ實行スルニ當リテハ爲替支持ノ爲資力ヲ要スル處本邦ノ現狀ニ於テハ此ノ資力ヲ缺キ居レリ尙外國ヨリノ資力供給ニ依リ之ヲ實行スルカ如キハ適當ナラスト思考シ居レリ

(ロ)右ノ次第二テ今日一定ノ爲替安定點ヲ定メ之力維持ヲ

拘束的ニ確約スルコトハ本邦トシテハ困難ナルモ帝國

政府ハ今日迄圓爲替ヲ低落セシムル措置ヲ取リタルコト無キノミナラス之カ支持又ハ動搖防止ノ爲最善ノ努

力ヲ拂ヒ來リタルモノニシテ圓爲替ハ昨年十一月以來概シテ強調ニ維持セラレ居リ國際收支ノ現狀並爲替管

理法ノ運用等ニ依リ其ノ效果ヲ舉ケツツアルヲ以テ豫

期スヘカラサル事態生セサル限り圓爲替ノ動搖不安ニ依リ世界經濟ノ恢復ヲ妨クルコト無カルヘシトノ確信

ヲ有ス云々

四、右華府ニ於ケル回答ニ對シ我方態度ノ説明振リハ本會議

ニ於ケル當方ノ採ルヘキ態度トシテ適當ト存セラル尤モ前記三(ロ)末段ノ確信ヲ述フルニ當リテハ弗爲替最近ノ不安定其ノ他外國通貨ノ不安定ニ基キ本邦爲替ノ動搖不安ヲ見ルカ如キ場合ハ如何トモ致シ難キ旨ヲ附言スルト共ニ英米等ノ主要國爲替ノ安定實現ハ本邦トシテモ切ニ希望スル處ナル旨ヲモ述フルコト適當ナル様存セラル本件ハ今日迄ノ御訓令諸項目中ニ御明示無之次第モ有之尙當方態度表明ヲ要スル時機稍迫リ居ルモノト認メラルルニ付テハ何分ノ御方針至急御回電賜リ度シ

143 昭和8年7月1日 ロンドン國際經濟會議全權より

内田外務大臣宛(電報)

英・米および金本位維持国との為替安定に関する宣言文案についての駐英仏國財務官の内

話について

ロンドン 7月1日後発

本 省 7月2日前着

第一二號

英、米及金本位維持國(佛、和蘭、白耳義、瑞西、伊五國)

間ノ爲替安定問題協議ニ關シ一日駐英佛國財務官Rueffノ津島ニ内詰セル所左ノ通り  
一、關係國間協議ハ種々ノ曲折ヲ經テ昨日宣言文案確定シタリ(米國側ニ付テハ會議全權團ハ全然關係セス主トシテ「モーレー」ト協議シタリ)右案文ハ昨日大統領ニ送致セラレタルモ昨夜中ハ其ノ回答ヲ得ルニ至ラス若シ大統領ヨリ承諾ノ回答アリタルトキハ右關係國ハ直ニ之ニ署名シ發表スル筈ナリ「モーレー」ハ右案文ニ贊成ナルモ大統領力如何ナル回答ヲ齎スヤ全然見當立タス佛國側トシテハ充分満足スヘキ程度ノ成案ヲ得タリト云ヒ難キモ本案ノ成立ヲ以テシテモ相當ノ效果アル事ハ看過シ難シト認メ居レリ

(2)二、本宣言ニハ他ノ會議參加國ノ加入ヲモ希望スルコトトナル可シ其ノ方法ハ未タ確定シ居ラサルモノト承知シ居ルカ或ハ會議ニ於テ本宣言ヲ報告シ他諸國ノ贊成加入方ノ希望ヲ表明スルカ如キ手續ヲ執ルヤモ知レスト想像シ居レリ

在歐米各大使(土ヲ除ク)聯盟代表へ轉電セリ

144 昭和8年7月3日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)  
英國國王に拝謁國際經濟會議など時局につき

言上について

ロンドン 7月3日後発

三、宣言案文ノ内容ハ普通用紙一頁半位ノ長サニシテ内容ハ先ツ通貨安定ノ必要ヲ述ヘ

第一二三號(極秘)

本 省 7月4日前着

七月三日御召ニ依リ英國皇帝陛下御所内ニ於テ拜謁ス陛下

ハ

一、若シ今回ノ世界會議力不成功ニ終ラハ蓋シ歐洲文明ハ破滅ニ瀕スルナランカ世人ノ所謂「アメリカ」文明モ亦同様ノ運命ニ陷ラン三年以前世界ノ最富ミタルモノト稱セラレタル米國ノ現狀ハ御承知ノ通ナレハ其ノ組織ニ於テ何等力ノ缺陷アルハ明ナリ各國共缺陷ナキモノハ無力ル可ク其ノ缺陷ヲ是正スルカ今回會議ノ目的ナレハ米國政府ニ於テモ此ノ目的ニ鑑ミ今少シク協調ノ精神ヲ發揮<sup>(揮カ)</sup>スルコトヲ希望セサルヲ得ス

二、支那問題ニ移リ支那ノ渾沌タル現狀ハ時節柄特ニ悲シム可シ過日宋子文ニ會ヒタル時支那力不完全ナル軍隊ヲ以テ世界ニ最充實セル軍備ヲ有スル日本ニ抵抗セントスルハ無益ノ業ナレハ支那ハ速ニ日本ト和ヲ講シ日支協力ノ途ニ出ツルコトヲ計ラサルヘカラサル所以ヲ述ヘ置キタ

ルカ其後北支那問題ノ發展如何トノ御質問アリタルニ付本官ハ覩慮感佩ニ堪ヘス幸ヒ過日北支那ニ於テ日支滿軍隊間ノ休戰協定成立シ支那中央政府ハ右協定ヲ尊重スルノ意向見ユルニ付此ノ分ニテ進マハ時局ハ近ク平定スヘ

ク存セラルト言上ス

三、貴國ニ於テ昨年井上藏相其ノ他暗殺事件アリタルカ右等事件ノ實際動機及其ノ動機ノ發展如何トノ御質問ニ對シ

本官ハ右ハ近年我國ニ起レル反動氣分殊ニ青、壯年者間ニ漂ヘル運動ノ現レナルカ右等反動ノ現象ハ漸次鎮靜ニ

赴キツツアリト奉答ス

四、最後ニ先般來日英、日印間貿易問題ニ付面倒起り居ル由ナルカ日英ト云ハス日印ト云ハス如何ナル國ノ間ニモ通商問題ノ面倒ハ有リ勝ノコトニシテ右等面倒ハ關係國政府及國民ニ於テ「ギブ、アンド、テイク」即チ互讓ノ精神ヲ以テ解決セサルヘカラスト仰セラル

以上二十二、三分間ノ談話一段落ヲ告ケタルニ付本官ハ謁見ノ御禮ヲ申上テ退出ス

145 昭和8年7月3日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

英米および金本位五國の為替安定共同宣言案  
に関するハル米国國務長官ステートメント並  
びに米国プリット委員との会談について

### 別電一 七月三日発ロンドン國際經濟會議全權より内

田外務大臣宛第一一五号

右米國紙に掲載された共同宣言案テキスト

#### 二 七月三日発ロンドン國際經濟會議全權より内

田外務大臣宛第一一六号

右ハル米国國務長官ステートメント

ロンドン 7月3日後発

本 省 7月4日前着

第一一四號

一、英米及金本位五國ノ爲替安定共同宣言案ニ對スル米國大

統領ノ態度ニ關シ七月一日當地米國全權團ヨリ左ノ「ス

テートメント」ヲ發表セリ

『大統領ハ國務長官ニ對シ共同宣言案ハ其ノ「プレゼン

ト、フォーム」ニ於テハ拒絕ノ外無キ旨ヲ回答シ來リタ

ルカ國務長官ハ月曜日朝本件ニ關スル詳細ノ「ステートメント」ヲ發表スヘシ』

二、右ニ基キ三日午前「ハル」ヨリ別電第一一六號ノ「ステートメント」ヲ發表セリ

三、三日朝米國「ブリスト」ト津島トノ會談要旨左記參考迄



Sound internal economic system of nation is greater factor in its well-being than price of its currency in changing terms of currencies of other nations.

It is for this reason that reduced cost of government adequate government income and ability to service government debts are all important to ultimate stability.

So too, old fetishes of so-called international bankers are being replaced by efforts to plan national currencies with objective of giving to those currencies continuing purchasing power which does not greatly vary in terms of commodities and need of modern civilisation.

<sup>(3)</sup> Let me be frank in saying that United States seeks kind of dollar which generation hence will have same purchasing and debt paying power as dollar value we hope to attain in near future. That objective means more to good of other nations than fixed ratio for month or two in terms of pound or franc.

Our broad purposes is permanent stabilisation of every nations currency. Gold or and silver can well

continue to be metallic reserve behind currencies but this is not time to dissipate gold reserves. When world works out concerted policies in majority of nations to produce balanced budgets and living within their means then we can properly discuss better distribution of world's gold and silver supply to act as reserve base of national currencies.

Restoration world trade is important partner both in means and result. Here also temporary exchange fixing is not true answer. We must rather mitigate existing embargoes to make easier exchange of products which one nation has and other nation has not.

Coference was called to better and perhaps cure fundamental economic ills. It must not be diverted from that effort".

Zenken

146 昭和8年7月4日 ロハズン国際経済会議全権より  
玄田外務大臣宛(電報)

### 英米および金本位圏の為替安定共同宣言案

#### 大西洋米国の本位地帯會議の前段序説へか なじ状況立てふれ

ロハズン 7月4日前発  
本 省 7月4日後着

第一二一號

往電第一一五號ノ趣旨ノ如キ金本位國並ニ英國側ノ同意ヲ含メル宣言案ニ對シ米大統領ヨリ不承認ノ回答ニ接シ(一日夜)一〇日金本位國代表内ノ協議英帝國各代表間ノ協議並ニ英國代表ト金本位國代表トノ會談アリ更ニ本三日往電第一一六號ノ如キ米國務長官ノ聲明アリタル爲會議ノ大勢ハ此ノ上討議ヲ繼續スルモ果シテ如何ナル效果ヲ齎スヤニ關シ疑義ヲ抱クモノ多ク從テ各代表ノ討議モ頗ルタレ氣味ノ狀況ナリ

今後會議ノ推移如何ハ勿論豫斷ヲ許ササルモ米國前記ノ聲明書ハ金本位國ニ對スル一種ノ挑戦ノ如ク解釋セラレ居リ

會議ノ前途ハ之ニ對スル金本位國ノ態度並ニ英國政府ノ出方ニ依リ決セラルモノト豫測セラレ居リ  
右ニ關シ瑞西首席全權(聯盟經濟委員會議長)カ本三日午

後伊藤リ内詰シタル處ニ依レバ

「金本位國ノ最終ノ態度ハ今夜着英スヘキ和蘭首相並ニ明朝歸來スヘキ佛藏相トカ會合ヲナシタル上決定セラルベキヤ從來金本位國間ニ爲サレタル意見交換ニ依レハ英米ニシテ通貨ノ安定ヲ承認セサル以上經濟會議ヲ續行スルモ何等意義ヲ有セストノ見解ニ一致シ居レリ自耳<sup>(註)</sup>義和蘭ハ多少異ナリタル地位ニアルモ出來得ル限り金本位維持ヲ爲サントスルノ意思ニ於テハ佛、瑞西ト異ナラス會議事日程ニモ金本位復帰カ目下不況救濟ノ第一急務ナルコトハ準備委員會ノ一致セル意見ナリシニ拘ラス米大統領ニテ本問題ノ討議ニ反対セラルル以上通商障害撤廢ノ如キ問題ハ到底解決ノ見込立タス

「昨二日英國代表ト金本位國代表トノ會談ニ於テ英國政府ハ金本位問題ニ關シテハ歐大陸諸國ト協調ノ態度ニ出ツルコト困難ナル旨ヲ説明シタルカ右ハ英帝國「ムツリ木

」代表ノ反対ニ基クモノナリ

「英米ノ態度右ノ如キ以上會議ヲ中止スルノ外名案モナク只問題ハ如何ナル代表部カスル「イリシヤテイブ」ヲトルヤノ點ニシテ瑞西ノ如キ小國代表トシテ自分ハ右ノ如

キ提議ヲナスコト不適任ト信スルヲ以テ或ハ伊又ハ蘭代表ニ於テ提議ヲスルコトトナルヤモ知レサル處此等ニ關スル決定ハ明日會合ノ後ナラテハ確定セス云云  
在歐米各大使（土ヲ除ク）へ轉電セリ

147 昭和8年7月5日 ロンドン国際経済会議全権より  
内田外務大臣宛（電報）

経済会議議事進行に関する幹部会緊急会議の  
討議状況について

ロンドン 7月5日前発

本省 7月5日後着

第一二六號

<sup>(1)</sup> 経済会議議事進行状態検討ノ名目ノ下ニ四日午後六時幹部會緊張裡ニ開催、石井出席議事經過左ノ如シ  
一、議長ヨリ本日ノ幹部會ハ會議ノ進行ニ關シ御相談シ度キ  
爲催シタルモノニシテ本日各委員會ノ討議ヲ延期シタル  
ハ御承知ノ通ナルカ其ノ理由ハ通貨安定問題カ此ノ際決  
定セラレス爲替相場ニ關スル協定出來サルニ於テハ其ノ  
他ノ重要ナル問題例ヘハ割當制度關稅等ニ關スル決定ヲ

<sup>(2)</sup> 五、右提案ニ對シ伊藏相ハ決定ヲ慎重考慮スルハ必要ナルモ  
自分トシテハ伊國民ノ輿論ヲモ考慮セサル可カラス伊國  
民間ニハ會議ハ果シテ何ヲ爲シツツアルヤトノ非難モ少  
カラス本會議ハ開會窮頭ヨリ經濟及財政ノ兩問題ハ同様  
ハ不可ナルモ輿論ノ趨勢ヲモ考慮セサル可カラスト述ヘ  
次テ佛藏相ハ今朝英藏相及米代表「コソクス」氏ヲモ加  
ヘ隔意ナキ意見ノ交換ヲ爲シタル結果本日（午後？）六  
時幹部會ヲ開ク必要有ルコトハ各人一致ノ意見ナリシニ  
今又木曜日迄延期ノ提議有リ佛ハ米、英ノ提議ニ敬意ヲ  
表スルヲ辭セサルモ伊代表ノ謂ヘル如ク各方面ノ情報ヲ  
綜合スルニ歐洲ニ於ケル輿論ハ會議ハ果シテ何ヲ爲シツ  
ツアルヤトノ疑問ヲ有スルコト明力ナリ故ニ幹部會ヲ木  
曜日前十時開會センコトヲ提議ス而シテ該幹部會ニ於テ  
會議開會ノ時ト同様重要ナル國ノ貨幣カ「ダントン」ヲシ  
ツツアル間ハ何等重要ナル問題ヲ解決シ能ハサル旨ヲ明  
瞭ニセラレントコトヲ希望スト述ヘタリ次テ加奈陀首相ハ  
問題ハ非常ニ重大ニシテ會議ノ延期ハ會議ノ解散ヲ意味

迄通貨問題力解決セラレタル場合ニ再開セラル可キヤノ

點ニ關シ議長ノ答辯ヲ求メタルニ對シ議長ハ自分ハ單ニ  
取次役ニ過キサルヲ以テ確答ハ爲シ得サルモ現在ノ停止  
狀態止ミタル瞬間即チ重要ナル通貨ノ國際價值カ確定セ  
ラレタル場合ニ再開セラルモノナリト答ヘタリ

三、米國務長官ハ更ニ議長力確答ヲ爲スコト困難ナリト謂ハ  
レタルハ問題ノ重要ナルヲ意味スルモノニシテ之カ決定  
ヲ爲スニハ特ニ注意ヲ要スルヲ示ス次第ナリ通貨問題決  
定セラレサレハ關稅通商障礙等ノ研究困難ナルニ於テハ  
是等ニ關スル態度ヲ決定スル必要有ル可ク自分トシテハ  
各國ニ於テ通商障礙ノ撤廢ヲ協議シ得スト謂フ點不可解  
ナリ從テ幹部會ヲ明朝十一時迄延期シ研究熟慮シタント  
提議ス

四、右幹部會延期ノ提議ニ對シ英藏相ハ議長ノ提案ハ頗ル重  
大ナル結果ヲ來ス可ク從テ早急ニ決定ヲ爲サハ輿論ハ必  
ス之ヲ攻撃ス可キヲ以テ今尚存在スル不明ノ點ニ關シ私  
的會合ヲ行ヒ其ノ爲明日一日ヲ當テ幹部會ニ出席シ居ラ  
サル各代表トモ意見ノ交換ヲ爲シタル上幹部會ヲ木曜日  
ニ招集セラレタント述ヘ米、加奈陀ハ之ニ賛成シ木曜日

爲スコト困難ナリトノ意見ニ基クモノナリスル狀態ノ下  
ニ於テ會議ハ條件附ニテ議事ヲ進行スヘキヤ又ハ議事ヲ  
中止シ失敗ヲ告白スヘキヤ後者ノ方法ハ狂氣ノ沙汰ナル  
モ左リトテ重要ナル委員會ノ活（動）カ停止セラレ居ル  
コトハ事實ナリ今朝副議長及各委員長等ト相談ノ結果其  
ノ意見ヲ幹部會ニ報告セソコトヲ委託セラレタリ會議ノ  
或ル問題ハ既ニ討議ヲ終了シ結論ニ達セルモノナリ是等  
ハ會議ノ運（命）如何ニ拘ラス存續スルモノナリ或ル問  
題ニ關シテハ日下討議ヲ爲サントシツツアリ是等ハ之ヲ  
終了セシムルヲ適當トス或ル問題ニ付テハ分科會ノ設置  
ヲ決議セルモノナリ是等ハ之カ設置ヲ見ルヲ適當トス即  
チ「オブスタクル」ノ存スル委員會ハ其ノ困難ニ關スル  
協議中議事ヲ中止シ「オブスタクル」無キ委員會ハ協議  
ヲ續ケ幹部會ハ其ノ存在ヲ續ケテ其ノ任務ヲ實行スルコ  
トトシ幹部會カ「オブスタクル」除去セラレタリト決定  
シタル場合ニ會議總會ノ議事ヲ再開スルコトトセハ如何  
ナランヤト提議セリ

二、米國國務長官ハ議長ノ提案ハ非常ニ重大ナリトテ如何ナ  
ル狀態ノ下ニ會議カ再開セラル可キヤ即チ如何ナル程度  
ナランヤト提議セリ

スルモノナリ世界ハ不況ノ苦ニ沈淪シ之ヲ救フ爲六十六  
國代表カ三週間討議シタル今日此ノ會議ヲ解散スルニ當  
リテハ其ノ理由ヲ明カニスルコト必要ナリ又幹部會ニ出席セサル代表ノ意見ヲモ徵スル必要有ル可シト述ヘ幹部會ヲ木曜前十時ニ再開スルコトトナレリ  
土ヲ除ク在歐米各大使へ轉電セリ

148 昭和8年7月5日 在米国出淵大使より  
内田外務大臣宛(電報)

為替暫定的安定問題に対する米国大統領の意  
向について

第六一二號  
往電第五七八號ニ關シ

事實上ノ通貨安定ニ對スル米國政府ノ意向ハ經濟會議ニ關聯シテ前後二回表明セラレタルモ今回ノ意思表示ハ前回ニ比シ一層徹底的ニシテ在倫敦米國代表スラ之ヲ意外トセルヤニ傳ヘラレ當方面ニ於テハ經濟會議ノ前途ニ囁望ヲ缺ク

モノ多クナリ歐洲特ニ英國方面ヨリハ瀕々トシテ經濟會議ノ危機傳ヘラレ木曜日ノ幹部會ヲ機會ニ經濟會議ハ御流レナルヘシトモ噂セラレ居ル所信スヘキ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ通貨安定ニ關スル大統領ノ意向ハ曩ノ金本位離脱ノ際大藏長官ノ聲明シタル弗爲替ノ自然的低落ニ對シテハ政府トシテ人爲的ニ干渉セスト云フ方針ヲ繼承シ居ルモノニシテ米國ニ於ケル聯邦準備制度ノ權限ハ他國ノ中央銀行制度ト異ナリ、弗爲替ノ調節ニハ政府ヨリノ充分ノ後援ナキ限り如何トモ手ノ付ケ様ナキ有様ニテ弗爲替ハ一上一下乍ラ漸落ノ歩調ヲ執リ來レル矢先今回ノ佛國ヲ頭目トスル歐洲ノ金本位維持國ヨリノ安定決議ノ提倡アリ然カモ米國トシテハ特別議會ニ於ケル國內繁榮ノ諸立法漸ク其ノ緒ニ就カントシ加フルニ物價釣上ヶヲ目的トスル政策ニ民主黨政府必死ノ努力ヲ注カントスル機運熟シツツアルニ當リ佛國等ノ自利的發意ニ基ク金本位維持國タル面目維持トアワ善クハ弗ノ下落ヲ牽制セントスル術策ニ乘セラレ之レニ惹カル力如キ事アリテハ漸ク下落シツツアル弗相場ノ大勢ヲ崩スノミナラス前記國內繁榮ノ新方針ノ實行ニ迄累ヲ及ホスヘシトナシ斷乎トシテ經濟會議ニ於ケル金本位維持國ノ

策動ヲ封スルノ必要ニ依リタルモノト觀察セラレ居レリ尙一説ニハ米國內ノ狀勢ハ議會ヲ中心トスル所謂「インフレーション」ノ勢力時ト共ニ增大シ大統領側近ノBrain trustノ理想急進論ト共ニ大統領ヲ動カシツツアルノミナ

ラス若シ新立法實施ノ成績思ハシカラス物價吊上ケノ目的達成シ得サルカ如キコトアリテハ共和、民主對立ノ今後ノ政界ノ分野ニモ重大ノ影響アルヘク從テ餘リニ「ナショナリスチック」ナリト非難セラレテモ大統領トシテハ新立法ノ實施ニ熱中セサルヲ得サルヘク又經濟會議ヲ休會乃至流會トスル責任ヲ採ルハ英米トシテハ素ヨリ望ム所ニアラサルヘキモ止ムヲ得サル場合ハ今少シク内外ノ情勢好轉ノ時期ヲ待ツテ再會スルカ如キ事態トナルニアラスヤト見ル向尠ナカラス

經濟全權へ轉電セリ

149 昭和8年7月7日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

國際經濟會議幹部会における會議繼續問題に  
関する各國の主張について

ロンドン 7月7日前発  
本 省 7月7日後着

第一三一號  
往電第一二六號ニ關シ

一、幹部會六日前開催議長開會ヲ宣スルヤ米國務卿ハ二十分ニ亘リ會議繼續ノ必要ヲ述ヘタルカ其ノ要旨ハ數年來世界經濟財政ノ組織ハ破壊セラレントシ各國ノ協力ヲ必要トスル狀態トナレリ米代表部ハ國民ノ信任ヲ以テ人類ノ幸福ニ關係アル凡テノ經濟問題ヲ討議セントシテ來レルモノニシテ各問題ニ關スル協定成立スルヤ否ヤ分明セサル以前會議ヲ分裂セシムルコトニハ反對ナリ會議ハ議事日程ニアル問題ヲ研究スルモノナルカ第一明瞭ニセサルヘカラサル點ハ各國カ經濟的孤立ヲ放棄スルヤ否ヤノ點ニアリ國內ニ於テハ各少數ノ反對者アリト雖吾人ハ矢張協力ノ必要ヲ知ルモノニシテ會議ハ今尙研究セサル問題頗ル多キヲ以テ此等ノ研究ヲ爲ササル以前歸國セハ國民ニ對シ説明ノ方法無キ次第ナリ從テ米代表部ハ各國力協調ノ精神ヲ以テ問題ヲ研究シ人類ノ幸福ノ爲貢獻センコトヲ希望ス從テ會議ハ一層「テンポ」ヲ早メ討議ヲ

爲シ數週間ノ後ニ議事終了セントヲ希望スト述フ續ヒ  
テ石井全權ハ吾人ハ世界復興ニ貢獻セん爲集マレルモノ  
ニシテ全力ヲ盡シ會議ノ成功ヲ計ラサルヘカラス會議ノ  
議題ハ多クアリ或ル問題ニ關シ困難生シタル場合ニハ他  
ノ問題ヲ研究スル必要アルヘク會議ヲ延期スルコトハ  
「アンワイス」ナリトノ意見ヲ述フ

二、伊藏相ハ會議ノ出發點ハ議事日程ナリ經濟並ニ財政問題  
ハ同一ナル「フーティング」ニアルコトハ明瞭ニシテ米  
國務卿ハ經濟的孤立ト言ハルルモ「モネタリアイソレイ  
ション」モ亦一國ノ自殺ヲ意味スルコトハ明カニシテ經  
濟財政問題ハ切離シ討議シ得ス議事日程ハ充分研究セラ  
レタルモノニシテ其ノ變更ニハ根本的研究ヲ必要トス各  
國ノ狀態ハ一樣ナラス大ナル富源ヲ有シ蓄積セル富ヲ有  
スル國ノ爲サントスル經驗ハ必シモ他國ニ適用シ得ス  
歐洲多數國ノ狀態ハ會議ニ多大ノ事ヲ豫期シ得サル現狀  
ニアリ從テ會議ハ困難ヲ有スル點ニ關シテハ當分休ミ其  
ノ他ノ點ニ關シ討議ヲ續行スルコトトスヘク生産統制ノ  
如キ其ノ一タルヘシト述ヘ

三、瑞典代表ハ「スカンジナビヤ」國代表タル意味ニ於テ會

ト」ヲ含ムモノニ非スシテ單ニ會議ノ形勢ヲ表示セント  
シタルモノニ過キサリシニ米國大統領ノ通告ハ全然狀況  
ノ變化ヲ齋シタルモノニシテ何等之ヲ批評スルノ意思ヲ  
有セサルモ唯吾人ハ之ヲ承認シ能ハサルモノニシテ又輿  
論モ大國ノ貨幣力毎日變動スル限り協定ヲ爲スヲ許サス  
經濟ト財政トハ密接ナル關係アルコトハ米國大統領ノ從  
來ノ聲明ニ於テモ明カナルヲ以テ此ノ際ハ天下ニ會議ノ  
決裂ヲ示サヌシテ近キ將來財政經濟方面ニ於テ平和確保  
セラレタル場合ニ會議ヲ再開スルコトトセハ適當ナルヘ  
シトテ伊國案ニ贊成ス

四、英ハ會議力非常ニ困難ナル點ニ達セルコトハ明瞭ナルカ  
單ニ手續問題ニ關シ意見ヲ述フト前提シ曰ク米國大統領  
力會議前關稅休戰ヲ提議セラレタルハ討議ヲ容易ナラシ  
メントノ意思ニ基クモノナルト同様大國ノ通貨力變動ス  
ル限り各般ノ問題ニ關シ協議スル爲ニ開カレタルモノナ  
ルヲ以テ佛國藏相ト三月會談セル如ク物價引上之ニ伴フ  
中央銀行間ノ協定、通商障礙ノ漸進的撤廢等ハ正ニ議論  
ヲ進行クヘキ問題ニシテ更ニ金本位國ト然ラサル國ト  
ノ間ニ將來ノ通貨制度ニ關シ意見一致ヲ計ルコトモ會議

議ノ大問題ハ物價引上並ニ通貨安定ニアルモ通貨安定無  
クシテ討議ヲナシ得サルノ點ハ承認シ得ス若シ此ノ點明  
瞭ナリシナラハ會議ニ出席セサリシ國モアリシナラン勿  
論通貨下落ヲ競爭スル間通商障碍ノ撤廢ノ不可能ナルコ  
トハ承認スルモノ之ノミヲ以テ會議ノ全般トナスコト能ハ  
ス若シ會議カ休會セハ各國ハ益々排他的政策ヲ執ル虞ア  
リトテ金本位國ノ再考ヲ求メタリ次テ佛藏相ハ米國務卿  
力協調精神ヲ高調セラレタルコト並ニ米國ノ政策ハ貨幣  
ヲ健全ナル基礎ノ上ニ置ク意思ナルコトヲ知リ得タルヲ  
感謝シ米國ノ困難ニ對シ同情ヲ表シタル後米國政府ノ政  
策ハ金本位國ノ政策ト根本的ニ矛盾スルコトヲ指摘ス金  
本位國ノ一團力存スルコトハ世界ノ爲ニ有益ナリ佛國ハ  
常ニ物貨ト<sup>(貨)</sup>生產費ノ調節ニ努力シ居ルモノニシテ今通貨  
ノ變動ヲ來サハ右努力ハ不可能トナルヘク此ノ點ニ關ス  
ル佛國ノ態度ハ明瞭ナリ本年三月倫敦ニ來リ英國藏相ト  
會議セルモ會議ノ成功ヲ希望シタル爲ニシテ通貨安定問  
題ニ對スル佛國ノ態度ハ會議前ヨリ明カナリシコト人ノ  
知ル所ナリト瑞典代表ニ答ヘタル後會議ニ於テ金本位國  
ノ爲サントシタル宣言ハ何等的確ナル「エンゲイジメン

五、<sup>(3)</sup>和蘭首相ハ吾人ノ意向ハ會議ノ本會議並ニニツノ大委員

會ノ討議ヲ延期セントスルモノニシテ會議トシテハ現在  
ノ難ニ當ラスト雖當然執ルヘキ經路ナリ會議ノ召集ハ議  
事日程ヲ基礎トシ交渉ヲ爲ス爲ナリ右基礎ノ主ナル點ノ  
一ハ金本位ニ依ル通貨安定ナリシニ今物貨ニ依ル通貨安  
定ノ新說出現シタルカ通貨政策ニ依ル物價ノ引上ヲ計ラ  
ントスルハ貨幣價格ノ下落ニ競爭ノ途ヲ開クモノニシテ  
危險ナルハ金本位國ノ一（致）主張スル所ナリ吾人ハ特  
ニ本會議力右ノ如キ新說ノ宣傳機關トナリ投機ヲ獎勵ス  
ルカ如キ機關トナルコトニ對シ反對ヲ述ヘ第一委員會ノ  
委員長トシテ通貨ノ安定ナキ以上各國ハ防禦ノ權利ヲ留  
保スルハ當然ナルコトヲ承認シ會議ハ右ニ關係ナキ問題  
ノ討議ヲ繼（續）スレハ可ナリトス

六、加奈陀首相ハ英藏相ニ贊意ヲ表シ會議ヲ延期スルコトバ

會議ノ解散ヲ意味スルモノナルヲ以テ反対ナリトシ現下

ノ如キ全世界ノ輿論ノ期待ニ反スル會議休會ノ責任ヲ何人カトリ得ルヤトシ會議ノ續行ヲ主張シ支那代表モ同様ノ說ヲ述ヘ西班牙亦發（言）シテ伊國案ニ贊成ス

七議長ハ金本位國並ニ然ラサル國ノ代表ヨリ成ル起草委員會ヲ設ケンコトヲ提議シタルニ對シ伊藏相ハ各代表伊國

案ト言ハルルモ實ハ前回議長ノ提案ヲ繰返シタルニ過キ

サルコトヲ辯明シ若シ必要アラハ自己ノ責任ニ於テ提案ヲナス用意アルコトヲ述ヘ現下ノ問題ハ會議召集ノ諒解

ト異ナルコトヲ強調シ物資ヲ以テ貨幣制度ノ根本トナス

如キ說ノ討議ニハ參加シ得スト主張ス英藏相ハ幹部會ニ

於テハ兩說ノ討議ヲナスコトハ不可能ナリトシ起草委員會ニ對シ

イ)總テノ委員會ハ議事ヲ續行シ結果ヲ會議ニ報告シ

(ロ)本會議ハ月末前ニ開會シ

(ハ)幹部會ハ一週一回開會

ノ提議ヲナス右ニ對シ佛ハ反対シ佛ノ提案ハ「モネタリー」

問題ヲ討議スルハ危險ナルヲ以テ全部其停止ヲ希望スル旨述ヘ並ニ公開ノ席上ニ於テ其主張ヲ討議スル用意アル

150 昭和8年7月7日 ロンドン國際經濟會議全權より 内田外務大臣宛（電報）

### 經濟委員會第一分科會における通商政策問題

の審議繼續をめぐる討議狀況および我が方繼續を主張について

ロンドン 7月7日後発  
本省 7月8日前着

### 第一三五號

七月前經濟委員會各分科會全部ノ合同會議（非公開）Colijn議長ノ下ニ開催議長ヨリ昨日幹部會決定ノ次第ヲ報告シ現狀ニ於テ有效ニ審議ヲ續行シ得ヘキ一個ノ表ヲ作成スヘキヲ述ヘ協議ノ結果第二分科會ノ生產及販賣統制問題並ニ第三B分科會ノ間接保護ニ關スル諸問題ハ孰レモ通

貨問題ト關係ナク討議シ得ルヲ以テ審議繼續ヲ適當ト認ムル事ニ異議ナク決定シタルモ第一分科會ノ通商政策ハ最重大ナルカ故ニ該分科會丈ノ會議ヲ開キテ議スル事トシ又第三A分科會ノ補助金問題ニ付テハ英カ審議繼續可能ヲ主張シタルニ對シ伊ノ反対アリ之亦該分科會ニ於テ議スル事トナレリ

依テ右合同會議ニ引續キ第一及第三Aノ兩分科會各會議ヲ開キタル結果左ノ通り

述ヘタルカ之ニ反シ英國代表ハ英帝國自治領ノ意見ヲモ代表スルモノナリトテ審議繼續ヲ主張シ假令此ノ際終局的決定ニ達シ得ストスルモ能フ限り審議ヲ進ムル必要アリ通貨問題モ何時カハ解決ノ時來ルヘキヲ以テ其ノ解決ヲ條件トスルモ差支ナク兎ニ角研究ヲ進ムル事トスヘシト述ヘ

諾威、（「スカンデナビア」諸國モ同意見ナル可シト附言セリ）、米、亞爾然丁之ニ贊成シ我方モ石井全權ヨリ審議繼續ヲ希望シ現狀ニ於テ直ニ續行不可能ナリト爲スハ尙早ナル可ク必要有ラハ通貨安定ノ如キ條件ヲ附スルモ差支無カル可キニ付今少シク審議ヲ續行ス可キヲ述ヘタリ（玖馬ハ缺席セルカ繼續說ナル由）「ソヴィエト」

代表ハ佛等ノ態度ハ了解シ得ル所ナルモ蘇提出ノ經濟不

侵略案ハ是非討議有リ度ク又蘇聯邦力「クレディット」等ニ關スル條件具ハラハ巨額ノ物資ヲ外國ヨリ輸入スル用意有リトノ提議ニ付テモ審議有リ度シト述ヘタリ右ノ

如ク分科會ノ意見ハ明確ニ二分シ妥協ノ餘地無ク依テ議長ヨリ小起草委員會ヲ設ケ右ニ關スル報告案ヲ起草セシム可キヲ提議シタルモ瑞西及佛ハ斯ル手續ハ無用ナリト例外的措置ヲ正式ニ承認スル事トナル惧アレハナリト

コトヲ宣言ス

八右ニ對シ米、英、佛議長等ノ間ニ意見交換アリ會議ノ空氣著シク興奮シ來リタルノミニテ何等決定ヲ見ルニ至ラス午後四時再會ノコトトシ散會ス

米、在歐各大使（土ヲ除ク）聯盟全權へ轉電セリ

八右ニ對シ米、英、佛議長等ノ間ニ意見交換アリ會議ノ空氣著シク興奮シ來リタルノミニテ何等決定ヲ見ルニ至ラス午後四時再會ノコトトシ散會ス

150 昭和8年7月7日 ロンドン國際經濟會議全權より 内田外務大臣宛（電報）

### 經濟委員會第一分科會における通商政策問題

の審議繼續をめぐる討議狀況および我が方繼續を主張について

ロンドン 7月7日後発  
本省 7月8日前着

### 第一三五號

七月前經濟委員會各分科會全部ノ合同會議（非公開）Colijn議長ノ下ニ開催議長ヨリ昨日幹部會決定ノ次第ヲ報告シ現狀ニ於テ有效ニ審議ヲ續行シ得ヘキ一個ノ表ヲ作成スヘキヲ述ヘ協議ノ結果第二分科會ノ生產及販賣統制問題並ニ第三B分科會ノ間接保護ニ關スル諸問題ハ孰レモ通

貨問題ト關係ナク討議シ得ルヲ以テ審議繼續ヲ適當ト認ムル事ニ異議ナク決定シタルモ第一分科會ノ通商政策ハ最重大ナルカ故ニ該分科會丈ノ會議ヲ開キテ議スル事トシ又第三A分科會ノ補助金問題ニ付テハ英カ審議繼續可能ヲ主張シタルニ對シ伊ノ反対アリ之亦該分科會ニ於テ議スル事トナレリ

依テ右合同會議ニ引續キ第一及第三Aノ兩分科會各會議ヲ開キタル結果左ノ通り

述ヘタルカ之ニ反シ英國代表ハ英帝國自治領ノ意見ヲモ代表スルモノナリトテ審議繼續ヲ主張シ假令此ノ際終局的決定ニ達シ得ストスルモ能フ限り審議ヲ進ムル必要アリ通貨問題モ何時カハ解決ノ時來ルヘキヲ以テ其ノ解決ヲ條件トスルモ差支ナク兎ニ角研究ヲ進ムル事トスヘシト述ヘ

諾威、（「スカンデナビア」諸國モ同意見ナル可シト附言セリ）、米、亞爾然丁之ニ贊成シ我方モ石井全權ヨリ審議繼續ヲ希望シ現狀ニ於テ直ニ續行不可能ナリト爲スハ尙早ナル可ク必要有ラハ通貨安定ノ如キ條件ヲ附スルモ差支無カル可キニ付今少シク審議ヲ續行ス可キヲ述ヘタリ（玖馬ハ缺席セルカ繼續說ナル由）「ソヴィエト」

代表ハ佛等ノ態度ハ了解シ得ル所ナルモ蘇提出ノ經濟不

侵略案ハ是非討議有リ度ク又蘇聯邦力「クレディット」等ニ關スル條件具ハラハ巨額ノ物資ヲ外國ヨリ輸入スル用意有リトノ提議ニ付テモ審議有リ度シト述ヘタリ右ノ

如ク分科會ノ意見ハ明確ニ二分シ妥協ノ餘地無ク依テ議長ヨリ小起草委員會ヲ設ケ右ニ關スル報告案ヲ起草セシム可キヲ提議シタルモ瑞西及佛ハ斯ル手續ハ無用ナリト例外的措置ヲ正式ニ承認スル事トナル惧アレハナリト

テ反対シタル爲以上兩派ノ意見ヲ其儘議長ヨリ委員會議

長ニ報告スルコトトナレリ

(三) A分科會ニテハ英代表ヨリ少クモ船舶補助金ノ問題

ハ討議ヲ續行ス可キヲ述ヘタルニ對シ伊代表ハ右ハ通貨

問題ト關係有ルカ故ニ通貨安定無キ現狀ニ於テ討議不可

能ナリトテ反対シ佛、獨、智惠古亦之ニ和シタルカ米及

諸威ハ船舶ノミナラス總テノ補助金問題ヲ含メテ討議ヲ

續行ス可キヲ述ヘ此ノ趣旨ニテ採決ノ結果前記四國ノ外

ハ何レモ討議繼續ニ贊成ナリ我方ニテハ門野顧問ヨリ討

議繼續ニハ反対ナラサルモ本問題ハ一般通商政策ト關聯

有ルヲ以テ若シ第一分科會力審議ヲ中止スルナラハ本問

題モ討議ヲ中止スルコト然ル可キ旨ヲ述ヘ置キタリ

151

昭和8年7月11日

ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

#### 國際經濟會議幹部会における各分科會の審議

##### 状況に関する討議について

ロンドン 7月11日前發  
本 省 7月11日前着

第一三九號

十日午前十一時半幹部會開催、六日ノ幹部會ノ決議ニ基キ

七日及本日午前ノ各分科會ニ於テ審議シタル結果ニ付協議ス

一、經濟委員會ニ付テハ其ノ議長及報告者ヨリ(イ)間接保護及

(ロ)生産販賣統制ニ付テハ各分科會トモ討議繼續ニ意見一

致シタル旨並ハ補助金及(二)通商政策ニ付テハ兩分科會ト

モ意見分レタルニ付此ノ狀態ニ於テハ討議繼續困難ナル

ヘキヲ以テ後日討議再開ノ場合ニ於ケル研究資料ヲ供ス

ル爲此ノ際右兩分科會ノ起草委員會ヲ作り是迄ノ討議ニ

現レタル各種意見ヲ纏メタル報告ヲ起草セシムル事ヲ提

議スル旨ノ報告書提出アリ格別議論ナク右ノ通り可決セリ

二、財政委員會ニ付テハ(イ)第一分科會議長ヨリ同分科會ニ於テ意見分レタル次第ヲ報告スルト共ニ右ノ結果ヲ審議スル爲起草委員會ヲ設クヘキ旨ヲ提議シ又(ロ)第二分科會議長ヨリ本日午前ノ同分科會ノ結果ヲ報告シタルカ(ロ)ニ付テハ往電第一三八號ノ通り未定ノ點アリ旁々財政委員會ニ付テモ經濟委員會同様議長及報告者ヨリ正確ナル報告

152

昭和8年7月11日

ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

#### 通貨安定問題に対する米國の態度などに關する英國首相の石井全權への内話について

ロンドン 7月11日前發  
本 省 7月12日前着

殊ニ米國ニ於ケル國際協力反対論者ノ勢力ヲ作ルコトトナルヲ以テ之ヲ避クヘキ旨ヲ述ヘタル

米、在歐各大使(土ヲ除ク)へ轉電セリ

三、本日幹部會ニ於テハ右ノ如ク主トシテ手續問題ニ付論シ會議ニ於ケル討議續否ノ根本問題ニ關シテハ格別議論ナカリシカ唯佛藏相ハ右起草委員會案討議ノ際吾人ハ米一位ナルカ故ニ假令少數ナリトモ十五箇國一致シテ審議續行ニ反対シ居ル問題ニ付テハ其ノ意見ヲ尊重スルヲ要

スヘク會議ハ能フ限り多數國參加ノ下ニ審議ヲ行フヘキモノニテ或種問題ニ付或國ノ不參加ヲ見ルカ如キハ面白カラスト述ヘ又米國國務長官ハ各國代表中討議ヲ好マサル問題ハ之ヲ除キ適當ノ「プログラム」ヲ作ル必要アルト同時ニ餘リニ「プログラム」ヲ變更シ世人ニ對シ經濟會議カ不成功ニ終リタルカ如キ印象ヲ與フルコトハ各國

本日財政委員會起草委員會ハ首尾好ク了解ニ達シ報告案モ出來上リタル由之ニテ全般ノ空氣モ一新セルニ付明日ヨリ二週間各委員會ニ於テ努力セハ若干ノ成績ヲ收メ得ヘク其ノ上暑中休暇ニ入り仲秋ノ頃再ヒ開會シテ勉強セハ會議ハ「クリスマス」ヨリ遙カ前ニ成功ヲ以テ閉シラルヘシ(石井ヨリ暑中休暇ニ入ラス引續キ仕事ヲシテハ如何ト問ヒタ

ルニ對シ首相ハ休暇ハ到底免レ能ハサル處況ヤ其ノ間米國

ノ態度ニ若干變化ヲ期待シ得ヘキニ於テヲヤト言ヘリ尙

首相ハ米國ノ面白カラサル態度ノ變更ニ依リ一週間ヲ徒費

シタルハ遺憾千萬ナリ「ルーズヴエルト」氏ハ曩ニ自分

(「マク」)ハ數シ通貨安定ノ件ニ付永久的及暫定的兩方

面ニ對シ共同措置ニ出ツル旨ヲ言明シ乍ラ其ノ後急ニ變心

シ而モ暫定的通貨安定ハ緊急問題ニ非スト言ヘルカ如キ攻

擊的態度ヲ執レルハ沙汰ノ限りナリトテ大ニ忿懥ノ氣ヲ漏

ラセリ(以上極秘)

在歐米各大使(土ヲ除ク)へ轉電セリ

153 昭和8年7月12日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

銀の任意売却防止および買上げに關する銀保  
有国と銀生產國間協定案並びに「ピッターマン」決

議修正案について

別電一 七月十一日発ロンドン國際經濟會議全權より

内田外務大臣宛第一四七号

右銀の任意売却防止に関する協定案

モ不取敢草案ノ儘別電ス

尚案文中ニ記入シ居ラサルモ米國側説明ニ依レハ印度政府  
手持銀賣出シ限度年額三千五百万「オンス」相當量ハ左記  
割合<sup>(#)</sup>依リ(單位「オンス」)政府ニ於テ買取ルモノトス  
(直接印度ヨリ買フニ及ハス自國內產銀ヲ市場ニテ買取り

#### 第一四六號

本省 7月12日後着  
ロンドン 7月12日前發

右ピットマン決議修正案

右銀の買上げに関する協定案

内田外務大臣宛第一四八號

二 七月十一日発ロンドン國際經濟會議全權より

右銀の買上げに関する協定案

シ米國側新提案ノ大綱ニ付内話アリ引續キ今朝銀保有國及  
銀生產國間協定案文別電第一四七號及第一四八號及「ピッ  
ターマン」決議案條<sup>(#)</sup>正案別電第一四九號ヲ送附シ來レリ右案  
文ハ正式提出ニ至ル迄ニ相當修正ヲ見ル可キモノト存スル

モ不取敢草案ノ儘別電ス

尚案文中ニ記入シ居ラサルモ米國側説明ニ依レハ印度政府  
手持銀賣出シ限度年額三千五百万「オンス」相當量ハ左記  
割合<sup>(#)</sup>依リ(單位「オンス」)政府ニ於テ買取ルモノトス  
(直接印度ヨリ買フニ及ハス自國內產銀ヲ市場ニテ買取り

在歐米各大使(土ヲ除ク)へ轉電セリ

153

昭和8年7月12日 ロンドン國際經濟會議全權より  
内田外務大臣宛(電報)

銀の任意売却防止および買上げに關する銀保  
有国と銀生產國間協定案並びに「ピッターマン」決

議修正案について

別電一 七月十一日発ロンドン國際經濟會議全權より

内田外務大臣宛第一四七号

右銀の任意売却防止に関する協定案

テ可ナリ)

米國

其ノ他諸國

内譯

墨西哥

加奈陀

「ボリビア」

秘露

豪洲

日本

三七六、四八六

右割合額中墨西哥以下ノ分ハ一九二九年乃至一九三一年ノ

三年間ノ各國銀產額ノ年平均額ニ依リ一千百万「オンス」

ヲ按分割當テタルモノナリ右草案中重要ノ箇所ニ關シ本日

午後津島「」及米國専門家Bruceと會談シタルカ委細  
後電ス

本問題ニ關スル我方ノ執ル可キ態度ニ付テハ追テ上申致ス

可キモ貴方ニ於テモ至急御考究相成様致度シ

國際經濟會議 国際經濟會議  
（別電一）

Whereas, Governments of India and Spain desire  
to sell as provided herein, certain portions of their  
silver holdings and it will be to their advantage for  
countries hereto, who are large producers of silver to  
absorb into their treasures silver as herein provided,  
as offset against such sales, and,

Whereas, it is to advantage of large producing countries that sales of silver from monetary stocks be limited as herein provided.

Now, therefore, it is agreed between parties hereto :

1. Government of India agrees not to sell more than 115 million ounces of silver during period of five years, commencing with January 1, 1934. Sales during each calendar year of said five year period shall be based on average of 35 million ounces per year, it being understood, however, that, if in any year, government of India shall elect not to sell 35 million ounces, that difference between amount she actually sells and 35 million ounces can be added as additional sales in subsequent years ; provided further, that maximum amount she may sell in any year shall be limited to fifty million ounces.
2. That Governments of United States, Mexico, Canada, Peru, Bolivia, Australia and Japan shall in aggregate purchase 35 million ounces of silver from

mine production of each respective country in each calendar year for period of five years commencing 1934.

3. Silver so purchased by each of said Governments

from mine supply in its country shall be placed in treasury of such country and used as monetary reserve and or for currency purposes during said period of five years.

4. Government of India having sold....millions of ounces of silver to date during 1933, agrees not to selling excess of....ounces of silver during remainder of 1933.

5. That Government of China as largest silver using country which will benefit by result of this agreement, agrees not to sell silver for period of five years commencing January 1, 1934.

6. That Government of Spain agrees not to sell in excess of five million ounces of silver in any calendar year for period of five years, commencing January 1, 1934.

7. This agreement is subject to ratification by Governments whose delegates are parties hereto.

(以下頭書各國代表署名欄ヲ設ク)

Zenken

(元體)

□ > > ~ 開口後銀  
長 細 ~ 開口後銀

No. 148

Draft of July 11, 1933.

It is understood between the Delegates of Mexico, the United States, Canada, Peru and Bolivia that the silver to be purchased by their respective Governments under the agreement with India, China and Spain, executed as of this date and attached hereto, shall be allocated between the respective Governments as follows :

1. The Government of Mexico shall purchase...ounces of silver in each calendar year beginning with the calendar year 1934 ;
2. The Government of the United States shall purchase...ounces of silver in each calendar year beginning with the calendar year 1934 ;
3. The Government of Canada shall purchase...ounces of silver in each calendar year beginning with the calendar year 1934 ;
4. The Government of Peru shall purchase...ounces of silver in each calendar year beginning with the calendar year 1934 ;
5. The Government of Bolivia shall purchase...ounces of silver in each calendar year beginning with the calendar year 1934 ;
6. The Government of Australia shall purchase...ounces of silver in each calendar year beginning with the calendar year 1934 ;
7. The Government of Japan shall purchase...ounces of silver in each calendar year beginning with the calendar year 1934 .

It is understood that this memorandum is subject

to ratification by the proper governmental authorities of the respective governments whose delegates have executed this agreement, and the delegates undertake to use their good offices to secure such action at the earliest possible moment.

Executed at London, England, in duplicate this

... day of July A.D., 1933.

(以下頭書各國代表署名欄ヲ設ク)

Zenken

(元體川)

□ > ド > ~ 田口日後発  
本 省 ~ 月 12 日後着

No. 149

Whereas, silver constitutes important medium of both international and domestic exchange for large proportion of world's population ; and

Whereas, value of this purchasing medium has been impaired by governmental action in past ; and

Whereas, it is necessary that normal supply and demand of silver be restored so that price of silver may be enhanced and then stabilized at normal level ; Therefore, be it resolved :

(A) That all governments shall prevent further debasement of their silver coinage, or melting of their

silver coinage except for reissue :

(B) That all governments shall remonetise their coinage up to fineness of at least 800/1000 ths as and

when consistent with their respective national budget problems ;

(C) That all governments, parties to this Conference, shall substitute silver coins for low value paper currency as expeditiously as budgetary conditions of each country will permit ;

(D) In consonance with declared aim of Conference to eliminate or reduce trade barriers, governments who have no existing import duties on silver agree that none shall be levied except as herein provided. Govern-

ments who now have import duties on silver will consider with other governments under what conditions this obstacle to free importation of silver can best be removed, provided that if no such arrangements can be made, governments not now having import duty on silver

may place import duty thereon to extent and limit that is maintained by any of large producing or consuming silver countries, namely, United States, Mexico, Canada, Peru, Bolivia, China, India or Spain ;

(E) That respective governments, parties to this Conference, shall recommend to their Central Banks that they consult together with other Central Banks, and consider advisability of carrying portion of their legal reserves in silver for cover of currency issues or for settlement of international balance payments ;

(F) That all governments, parties to this Conference, except Governments of India and Spain, agree that they will not sell any silver for period of five years.

~~~~~

Zenken

利權擁護ノ主眼ニヤルノ嫌ナキニ非ス以上ノ諸點ヲ考

慮スルトキハ本邦トシテ右ニ參加不同意ヲ表スルコト

適當ナル様一應思考セラル

(口)然レ共一面米國側ハ本邦ノ參加ヲ右計畫ノ國際的背景

ヲ大ナラシムル點ニ於テモ尙本邦ノ銀消費國トノ貿易

關係ニ於テモ熱心希望シ居ル事情ヲ考慮シ又本邦買入

割當額ハ全體ノ一「パーセント」ニ過キサル小額ニシ

テ本邦政府ニ於テ之力買入資金調達ニ支障無之且將來

ノ必要ヲ慮リ（滿洲國金融經濟上ノ關係ヲモ併セ考慮

セラレ）銀地金補充ノ御方針ナルニ於テハ前記計畫

（細目ニ付テハ別ニ考究スルトシテ）ニ同意スルモ一

策ナリト云フヲ得ヘシ尤モ此ノ邊ノ事情當方ニ於テハ

不明ナルニ付當方ニ於テ本件ニ對スル態度決定ニ稍困

難ヲ感スル次第ナルニ付前掲(イ)(ロ)ノ諸點ヲモ御勘考ノ

上本件ニ關スル何分ノ御方針御回示相成度シ

三、銀決議修正案（往電第一四九號別電御參照）ニ關シテハ

(A)項鑄潰シノ追加規定ハ其目的賣出制限ニ存スルモノナ

ルニ付寧口(F)ニ包含規定スルヲ適當トスヘク而シテ此

ノ種制限ヲ設クルノ可否ニ付テハ後掲(F)項賣出制限ノ

當否ト併セ考慮スヘキモノト存ス又(C)項 Budgetary

155 昭和8年7月18日 内田外務大臣より
ロンドン國際經濟會議全權宛(電報)

貴電第一五七號ニ閔シ

銀問題ハ貨幣及信用政策ニ關スル對策トシテハ傍系的

性質ノモノニシテ根本的對策ノ協定ヲ見サルニ本問題ヲ

審議決定スルハ本末顛倒ノ嫌アリト雖モ現狀ニ於テ審議

式に修正などのうえ決定に助力方訓令

本省 7月18日後10時40分発

第二七號 至急

貴電第一五七號ニ閔シ

第一、銀問題ハ貨幣及信用政策ニ關スル對策トシテハ傍系的

性質ノモノニシテ根本的對策ノ協定ヲ見サルニ本問題ヲ

審議決定スルハ本末顛倒ノ嫌アリト雖モ現狀ニ於テ審議

シ得ヘキ問題ニ就テ能フ限り其ノ審議ヲ速進スル事ハ會議ノ成果ヲ收ムル上ニ有效ト思惟セラルヽノミナラス他方生産販賣等ニ關スル協定案等ノ審議續行セラレ居ルニ鑑ミ本邦トシテモ能フ限り本問題ノ審議決定ニ助力スルコトヽ致度

第二、ピツトマン修正決議案ニ關シテハ

一、貴電第一六四號ノ通勸告ノ形式トシ其ノ趣旨ニテ字句ヲ修正スルコトヽ致度

二、(A)項ノ鑄潰ノ追加規定ノ削除ヲ可トス

三、(C)項冒頭貴電ノ通修正スルヲ可トス

四、(E)項中央銀行間ノ協議ニ際シ法定準備ノ一部ヲ選擇的

ニ銀ヲ以テ保有スルコトヲ得ル餘地ヲ存スル様適宜措置セラレ度

五、(F)項前段手持銀賣止差支ナシ

第三、銀保有國及銀生產國間ノ銀賣出及買入ニ關スル協定案ハ冒頭貴電一ノ(イ)ノ如ク銀價維持安定ノ效果ヲ期待スル事難ク多額ノ產銀國及銀保有國ノ利益擁護ニ偏スルモノト認メラレ從テ本邦トシテハ銀使用國トノ經濟關係、本邦ノ貨幣政策及、產銀業ノ現狀等ヨリ見ルモ斯ル買入ノ

156 昭和8年7月19日 ロンドン國際經濟會議全權より
内田外務大臣宛(電報)

銀委員会において可決された確定決議案について

別電 七月十九日發ロンドン國際經濟會議全權より

内田外務大臣宛第一七八号

右決議案

ロンドン 7月19日後発

本省 7月20日前着

第一七七號

太利對案ノ兩案提出セラレ和蘭ノ支持ニ依リ伊太利案ヲ審議字句修正ノ上可決之ヲ金融第一分科會に報告スルノレーナレリ右報告スベキ確定決議案別電第一七九號ノ通ニ

「(銅銀賣止メ及買上ケリ關シテハ金曜日關係國間ニ協議ハル等)

「(銅銀賣止メ及買上ケリ關シテハ金曜日關係國間ニ協議ハル等)

(別電)

ロハニハ 7月19日後発

本省 7月20日前着

No. 178.

Be it resolved to recommend to all governments parties of this Conference:

(A) That agreement be sought between chief silver producing countries and those countries which are largest holders or users of silver with view to mitigating fluctuations in price of silver; and that other nations not parties to such agreement should refrain from measures which could appreciably affect silver market

(B) That governments parties of this Conference shall refrain from new legislative measures which would involve further debasement of their silver coinage below fineness of 800/1000

(C) That they shall substitute silver coins for low

value paper currency in so-far as budgetary and local conditions of each country will permit

(D) That all of provisions of this resolution are subject to following exceptions and limitations:

Requirements of such provisions shall lapse on April first 1934 if agreement recommended in Paragraph (A) does not come into force by that date and in no case shall extend beyond January first 1938;

Governments may take any action relative to their silver coinage that they may deem necessary to prevent flight or destruction of their silver coinage by reason of rise in bullion price of silver content of their coin above nominal or parity value of such silver coin.

Zenken

157 昭和8年7月21日 ロンドン國際經濟會議全權より
内田外務大臣宛(電報)

銀輸出ねどり買入協定には我が方参加しない
並レーナレシテ伝達方ブルース米國委員に申

入れにハコレ

ロハニハ 7月21日後発

本省 7月22日前着

第一八六號

貴電第二七號第三回關シ

昨廿日津島ヨリ米國代表部「ブルース」ニ對シテ銀輸出及

買入協定案ニ付本邦政府トシテハ之カ成立ヲ結構ナリト考

フルモ本邦ハ極メテ少額ノ產銀國ニ過キス本邦參加セサル

モ該案ノ實效ニ何等影響無カル可シト存スルニ付本邦ヲ除

外シテ他ノ關係國間ニ本件協議ヲ進メラシノコトヲ希望ス

ル旨申進メ尙右本邦意図「ブルース」ニ傳達方依頼シタ

ル處「ブルース」ハ本件ニ對スル本邦ノ地位ハ充分了解セ

リ「ヨハニマハ」ニ其ノ眞傳言シ日本ハ參加セサルコトメ

シテ今後協議ヲ進ムル様取計フ可シト答ヘタルカ次イテ本日午前「ブルース」ヨリ「ヨハニマハ」ニ傳言シタル處同

158 昭和8年7月26日 ロンドン國際經濟會議全權より
内田外務大臣宛(電報)

國際經濟會議幹部会議おおむね協議進捗およぶ

執行委員会設置決議案の採択にハコレ

別電一 七月二十六日発ロハニハ 国際經濟會議全權よ

り内田外務大臣宛第一九九号

右會議再開に關する決議案

II 七月二十六日発ロハニハ 国際經濟會議全權よ

り内田外務大臣宛第一〇〇号

右執行委員会設置決議案

ロハニハ 7月26日前発

本省 7月26日後着

第一九八號

二十五日午後幹部會開催經過左ノ通

「幹部會ヨリ總會ニ對シ經濟會議今日迄ノ經過大要ヲ記述シタル報告書ト共ニ別電第一九九號ノ決議案ヲ提出スルコトニ決ス右決議案ニ依レハ會議再開期日ニ付何等ノ見當キ付キ居ラサルニ對シ米國國務長官ヨリスクリーフテハ會議力無期休會トナルモノノ如キ印象ヲ與ベ面白カラス會議ハ必ス再開セラルヘシトノ確信ヲ世人ニ與フルコト必要ナルニ付再開期日ニ付何等力期限ヲ附シ置クヘク例ヘハ幹部會ハ晩クモ充分ナル事態ノ改善ヲ見ス再開期日決定不可能ナル場合ニハ米國々務長官ノ意図ニ反スルノ結果ヲ生スキヲ以テ同長官案ハ危險ナリトテ反対シ伊國代表之ニ同意シタル結果國務長官案ハ不成立ニ終レリ

二、前記決議案カ總會ノ採擇ヲ得タル場合ニ對スル處理トハ

テ幹部會ハ別電第一〇〇號ノ通決定セリ

三、公共事業ニ關シ經濟、財政兩委員會、同分科會設置ノ件

ハ前記二ノ實行委員會ニ於テ必要ニ應シテ決定スルコトム

四總會議ハ一十七日午前十時開催トス
ロハムハ 七月26日前発
本 省 7月26日後着

(別電 I)

ロハムハ 七月26日前発
本 省 7月26日後着

No. 199

Conference empowers President Vice-President and Bureau

1. To take whatever action they may consider likely to promote its success whether by convocation on any Committee set up by Conference or of representatives of states especially concerned in any particular problem or by reference to experts for study of any special question

2. To determine date of reassemblage of Conference.

Zenken

(別電 II)

No. 200

Bureau requests its President Vice-President Presidents Vice-Presidents and Rapporteurs of commissions or such persons replacing them as their respective governments may nominate to act during intervals between meetings of Bureau and its executive Committee

Requests executive Committee

A. To take measures in light of development of monetary and financial situation for resumption of work on questions which Monetary and Financial Commission has had before it;

B. To arrange for execution of proposals of Sub-Committees of Economic Commission and generally to take all measures which conditions permit in order to further work of Economic Commission.

議會經濟國際

II

~~~~~

Zenken

159 昭和8年7月28日 ロンドン國際經濟會議全權より  
ロハムハ 七月28日前発  
内田外務大臣宛(電報)  
本 省 7月28日後着

第110五號<sup>(1)</sup>  
廿七日午前午後經濟會議總會開催財政及經濟各委員會報告及幹部會報告提出アリ兩委員會報告者及委員長ノ演說ニ次キ一般討議ヘシト伊白英獨智惠古伯刺西爾西班牙蘇聯亞爾然」「ハイチ」日本(石井)米佛各代表ノ演說有リタル後幹部會提出往電第一九九號ノ決議案ヲ可決シ財政經濟兩委員會報告ヲ採擇シ議長閉會ノ辭有リ米國代表發議ニテ英國政府及議長「マクドナルド」等ニ對スル感謝ノ決議ヲ行ヒタル上議長ハ經濟會議本「ヤツシヨン」ノ閉會ヲ宣セリ右各代表ノ演說ハ大体ニ於テ各自國ノ立場ヲ述ヘ會議再開ニ對スル希望ヲ表明シタルモノニテ詳細ハ郵送議事錄ニテ御承知アリタキヨ議長ハ閉會ノ辭ニ於テ本「ヤツシヨン」ハナリテ閉會スルモ右ハ「レセッス」ニシテ會議終ニ非

ストテ今次會議ノ事業ヲ概述シタル上往電第二〇〇號幹部會「エグゼキユーチヴ、コミツティ」組織ノ件ヲ報告シ會議再開ノ期日ハ決定シ得サルモ遠カラサル時期ニ再開ニ至リ得ヘキヲ信スル旨ヲ述ヘタリ

<sup>(2)</sup>又石井全權演説ハ最惠國條款及通商障害緩和ニ關スル我方

主張ヲ繰リ返ヘスト共ニ往電第一八八號米國提案ノ趣旨ニ贊意ヲ表シ各國力此ノ趣旨ニテ研究ヲ行フコトヲ希望スル

モノニテ全文聯合ヲシテ打電セシメタルニ付右ニ依リ御了承ヲ請フ尙本日午前ノ總會ニ於テ「ハル」氏ハ左記要領ノ

本會議々長宛米國大統領ノ「メツセーデ」ヲ朗讀セリ

「會議ノ成果ハ單ニ形式的協定ニ依リ測定スヘキモノニ非ス各國力其ノ困難及之力救濟方法ニ關シ自由ニ意見ヲ述ヘ

タルコトニ之ヲ求メ得ヘシ今ヤ本會議ニ依リ米國民ハ他國民ノ問題ヲ一層良ク了解スルニ至リタルカ他國民モ米國力未曾有ノ經濟的窮境ニ處スル爲採リツツアル政策ヲ同様ノ好意ヲ以テ見ラレンコトヲ期待ス是等意見交換ノ結果更ニ凡テノ問題ニ關スル詳細ナル審議ヲ見ルニ至ラハ將來ノ進歩ニ資スル所大ナルヘク從テ余ハ經濟會議力失敗ニ終レリトハ信セス未曾有ノ時局ニ適應センカ爲ニハ新ナル調整ヲ

160 昭和8年10月7日 広田外務大臣より  
湯浅宮内大臣宛

### ロンドン国際経済會議石井全權などに對する

御陪食仰付け方依頼について

付記 十月十日奏上

### 普通第三一五號

昭和八年拾月七日

外務大臣 広田 弘毅

宮内大臣 湯浅 倉平殿

倫敦國際經濟會議帝国全權委員子爵石井菊次郎外三名  
ヘ御陪食仰付ケラレ致件

倫敦國際經濟會議ニ於ケル帝国全權委員子爵石井菊次郎並同深井英五今般同會議休會ノ為帰朝致候ニ付右両全權委員並左記諸大臣ノ御陪食被仰付候様御取計相煩度此段御依頼

### 申進候也

記

内閣總理大臣子爵 齋藤 実

外務大臣 廣田弘毅

参考

石井深井両全權出發ノ際ハ御陪食ニ際シ關係大臣トシテ總理、外務、通信、商工、農林、拓務（但大藏大臣ハ病氣ノ為大藏省ト協議ノ上申立テス）ノ六大臣ニモ御陪食仰付ケラレ度吉申立タルモ今回ハ宮内省側ノ意向トシテ關係大臣數ヲ更ニ少クシ陞下ニモ緩々御話申上得ル様致度トノコトナリシニ付別信ノ通總理大臣及外務大臣ノ両名ニ止ムルコトヽセリ

尚石井深井両全權ハ十月十日前十一時參内拜謁終テ石井全權ヨリ復命上奏アリ次テ御陪食ノコトニ取計ヒ度旨宮内省總務課長ヨリ内報アリタリ

十月七日

森山記（印）

### （付記）

必要トスル處經濟會議ノ繼續ハ吾人ノ共同協力スル幾多ノ問題ニ付實際的良結果ヲ齎スヘキニ鑑ミ我々ハ此ノ後共世界復興ニ對シ努力ヲ繼續スルモノナルコトヲ承知アリ度シ」

~~~~~

英國首相ヲ始メトシ佛、伊、獨、加、支等ノ使節ノ訪米アリ各々大統領及國務長官等ト會談シ經濟諸問題ノミナラス軍縮問題及戰債問題等ニ付テモ意見交換ヲ行ヒタル趣ナリ臣等華府ニ到着スルヤ先ツ大統領及國務長官ト一般的會談ヲ爲シタル上一方ニ於テ彼我専門家會談ヲ催シ主トシテ國際經濟會議ノ議題事項ニ付意見ノ交換ヲ行ヒタルト共ニ他方臣菊次郎ハ數次ニ亘リ單獨ニ大統領ト會談ヲ行ヒタリ右會談ハ單ナル意見交換ニ過キスシテ何等決定ヲ爲サムトスルモノニハアラス依テ臣等ハ専門家會談ノ機會ニ於テ能フ限り倫敦會議討議事項ニ對スル米國側ノ意図ヲ確ムルト共ニ帝國ノ主張及立場ヲモ明カニシ以テ彼我意思ノ疎通ヲ計ルニ努メタリ又大統領ト臣菊次郎トノ會談ニ於テハ大統領ハ極メテ打解ケタル態度ヲ示シ話題モ獨リ經濟問題ニ止マラス進シテ戰債問題ニ關スル心意ヲ語リ軍縮及安全保障問題ニ關スル方針ヲ述ヘテ軍縮達成ヲ希望スル所アリタルカ滿洲問題等ニ關シテハ寧ロ之カ論議ヲ避クルモノノ如ク見受ケラレタリ臣菊次郎ハ此ノ機ヲ捉ヘ進シテ支那問題ニ付篤ト説明ヲ加ヘ排日運動ノ不法非道ナル所以竝過去ノ歴史及支那ノ國民性ニ鑑ミ他國ト雖モ支那ノ排外運動ノ厄ニ遭フコ

トナキヲ保シ難ク從テ之ニ無關心ナル能ハサルヘキ所以ヲ詳述シ以テ極東問題及帝國ノ對支對滿政策ニ對スル理解ノ首肯シ居リタルヨリ察スルニ大統領ハ少ナカラス極東問題ニ對スル認識ヲ深メタルモノノ如ク又其ノ言辭ヨリ按スルニ現在ニ於テ彼ヨリ積極的ニ我ニ干渉セムトスルカ如キ意圖ハ之ヲ藏セサルモノト推察セラレタリ、尙臣等一行ニ對スル米國政府ノ接待甚タ鄭重ナリシノミナラス諸會談ニ於ケル米國側ノ態度ハ常ニ友好的ニシテ大統領ノ臣等ニ接スル恰モ友ニ會フカ如ク腹藏無ク所懷ヲ述ヘ以テ日米國交ノ增進ヲ計ラムトスルノ觀アリシハ臣等ノ特ニ愉快ニ感シタル所ナリ

華盛頓當局トノ會談ノ外臣等ハ更ニ米國滯在ノ期間ヲ利用シ滿洲事變以來惡化セリト傳ヘラルル米國一般對日感情ノ改善ニ努メタキ考ヨリ各所ニ於テ講演及放送等所有機會ヲ捉ヘ日米両國間友好關係維持ノ必要ト米國ニ對スル帝國當時不變ノ友情ト高調シ時ニ或ハ支那問題ノ説明ヲモ加ヘ以テ一般輿論ノ啓發ニ努メタリ

國際經濟會議ハ六月十二日英國皇帝陛下親臨ノ下ニ日、英、

米、佛、伊、獨、露、支其ノ他合計六十四國代表者ノ參列ヲ以テ開會セラレ一般討議ヲ行ヒタル上財政及經濟ノ兩委員會ヲ設ケ財政委員會ニ於テハ財界建直ニ關スル當面ノ措置及國際的通貨本位再建ニ關スル恒久的措置等ノ財政問題ヲ又經濟委員會ニ於テハ通商政策、生產販賣統制及其ノ他ノ經濟問題ヲ研究審議スルコトトナシ各委員會ハ更ニ數個ノ分科會及小委員會ヲ設ケテ研究ヲ行ヒタリ右討議事項ノ範圍ハ極メテ廣汎且多岐ニ亘リ其ノ重要性ニ付テモ各國ノ立場ニ依リ見解必シシモ同シカラスト雖モ就中財政關係ニ在リテハ通貨安定問題又經濟關係ニ在リテハ關稅及輸出入制限等ノ事項ヲ含ム所謂通商政策問題ヲ以テ最モ重要ナル問題トナス點ニ於テハ大多數ノ意見一致シ居タリ、帝國トシテハ對外通商貿易ノ發展力帝國國勢伸張上必要缺クヘカラサル條件タルニ鑑ミ外國ニ於ケル關稅其ノ他ノ通商ニ對スル各種障礙ヲ除却緩和セシムルコト恒久的見地ヨリスルモ將又當面ノ實情ヨリスルモ極メテ緊要ナルモノアリ依テ臣等ハ會議ニ於テ右趣旨ノ実現セラレムコトヲ希望シ之ヲ主眼トシテ折衝努力セリ

然ルニ會議半ニ及ヒ通貨安定問題カ米國ノ反對的態度ノ爲

斯クノ如ク會議ハ中途ニシテ休會ノ已ムナキニ立到リタル爲特筆スヘキ結果ヲ舉クルニ至ラス殊ニ帝國政府ノ特ニ重要視シタル通商政策ノ問題ノ如キハ通貨安定ト密接ノ關聯アリトシテ之カ討議ヲ中止セラレ何等成果ヲ見ルニ至ラサリシハ臣等ノ誠ニ遺憾トスル所ナリ將又今次會議ニ現ハタル諸國ノ意図ヲ見ルニ現狀ニ於テハ各國共當面ノ深刻ナル不況ニ對シ自國ノ經濟ヲ防衛保護スルニ汲々トシテ他國ノ事情ヲ顧慮スルノ餘裕ナク之ヲ以テ自國ノ經濟的存在ニ係ハル緊要政策ト做シ卒ニ之ヲ改變スルノ意圖ナキニ似たり然リト雖モ今次討議ニ依リ各國ノ直面シツツアル困難竝

世人ハ現在ノ經濟難局ノ如何ニ深刻ナルカラ切實ニ感得ス
ルト共ニ之力打開ノ爲ニハ結局ニ於テ各國ノ互讓協力ヲ必
要トスルコトモ明瞭トナリタル次第ナルヲ以テ將來適當ノ
時期ニ至ラハ會議ノ再開ヲ見ルヘク其ノ場合ニ於テハ今次
討議ノ結果力有益ナル資料トナルヘシト思考セラル
終ニ附言致シタキハ輓近ニ於ケル本邦商品ノ進出力諸外國
ニ對シ甚大ナル脅威ヲ與ヘツツアルノ一事ナリ米國大統領
及英國首相力親シク臣等ニ對シ廉價ナル本邦商品ノ脅威ヲ
語リ對策ヲ講セサルヲ得サル事情ヲ陳辯シタルカ如キ其ノ
一例ニシテ經濟會議ニ於テハ幸表面上問題トナルニ至ラサ
リント雖モ廉價ナル本邦商品カ亞細亞、南洋阿弗利加等ノ
ミナラス歐米ノ諸國ニ迄モ急激ナル勢ヲ以テ進出シ外國製
品ハ到底之ニ競爭シ能ハサルノ事實ハ各國注目ノ的トナリ
居ルコト疑フヘカラス是ニハ現時本邦爲替相場ノ下落セ
ルニ原因スルコト否ムヘカラスト雖モ斯クノ如キ進出ヲ可

リント雖モ廉價ナル本邦商品カ亞細亞、南洋阿弗利加等ノ
ミナラス歐米ノ諸國ニ迄モ急激ナル勢ヲ以テ進出シ外國製

品ハ到底之ニ競爭シ能ハサルノ事實ハ各國注目ノ的トナリ

居ルコト疑フヘカラス是ニハ現時本邦爲替相場ノ下落セ

ルニ原因スルコト否ムヘカラスト雖モ斯クノ如キ進出ヲ可

能ナラシメタル所以ノモノハ實ニ近時ニ於ケル帝國產業ノ
目醒マシキ進歩發達ニ外ナラス是實ニ國運隆昌ノ兆ニシテ
誠ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ然レトモ之ニ依リ脅威ヲ受クル
諸外國ハ我進出ヲ目シテ或ハ不正ノ競争ナルカ如クニ誣ヒ
以テ我ノ名聲ヲ傷クルモノアルノミナラス進シテ本邦商品
阻止ノ措置ニ出テムトスル情勢アルハ頗ル警戒ヲ要スル所
ナリ此ノ實狀ヲ顧レハ我經濟的發展ノ前途尙多難ナル感
無キヲ得ス益々朝野心ヲニシ内ニ夫々適當ナル措置
ヲ執リ以テ此ノ難關ヲ排除シ國運ノ發展ヲ期スルノ覺悟ナ
カルヘカラスト存ス

右謹テ奏ス

昭和八年十月十日

倫敦國際經濟會議全權委員

子爵

品ハ到底之ニ競爭シ能ハサルノ事實ハ各國注目ノ的トナリ

居ルコト疑フヘカラス是ニハ現時本邦爲替相場ノ下落セ

ルニ原因スルコト否ムヘカラスト雖モ斯クノ如キ進出ヲ可

*事項編注

本件會議については、同會議我が方代表部作成の會議報告書が既刊『日本外交文書 昭和期國際連盟經濟關係會議報告書集』第二卷に収録されているので、本件會議の詳細な討議内容などについては、同書参照。

四 國際連盟における諸問題*

161 昭和八年二月二日 在中國中山(詳一)公使館一等書記官

より
内田外務大臣宛

南洋群島委任統治地域に日本海軍根拠地建築
との漢字紙論調について

公第五三號

(2月15日接受)

昭和八年二月二日

在中華民國日本公使館

公使館一等書記官 中山 詳一〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

南洋諸島ニ於ケル日本海軍根據地建築ニ關スル

漢字紙論調報告ノ件

一月二十七日ノ北平晨報ハ「南太平洋ノ日本海軍根據」ト

題シ概略左ノ如キ社論ヲ掲載シタルニ付何等御参考迄譯報

ス
日本ハ歐洲大戰參加ノ際豫メ英人ノ同意ヲ得戰後赤道以

北ノ南太平洋ノ諸島ヲ委任統治ノ名義ノ下ニ占有セル處